

講義科目名称：在宅看護方法論Ⅱ

英文科目名称：Home care nursing methodology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	演習
担当教員				
鈴木 育子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		在宅看護論

授業概要	<p>疾病・障害により「医療ケア」と「生活ケア」を必要とする療養者とその家族への援助方法や在宅療養支援体制について演習（実技含む）を通して学ぶ。①生活の場における「医療ケア」、「生活ケア」の特徴を理解する。②慢性疾患をもつ療養者とその家族への援助方法を理解する。③神経難病難病のある療養者（小児含む）とその家族への援助方法を理解する。④認知症がある療養者と家族への援助方法を理解する。⑤独居で精神障害をもつ療養者への援助方法を理解する。⑥終末期にある人とその家族への援助方法を理解することを学習目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 在宅看護の実際① アセスメント技術と在宅医療機器 ・在宅看護方法論Ⅱの授業の進め方の説明 ・在宅看護におけるアセスメント技術と在宅医療機器について学ぶ。 ・福祉用具と日常生活補助用具について学ぶ。</p> <p>第2回 在宅看護の実際② グループ学習（1-5G、6-10Gの入れ替え制で実施） 〔調べ学習〕 ・ケアマネジメントとケアマネジメントの機能 ・介護保険製における介護サービスの種類と内容 ・地域包括ケアシステム ・厚生労働大臣名が定める疾患 ・訪問看護ステーションの仕組み</p> <p>第3回 在宅看護の実際③ 福祉用具と日常生活用具 グループ学習（1-5G、6-10Gの入れ替え制で実施） 〔グループ演習〕 ・福祉用具、日常生活補助具の実際について学ぶ。 ・在宅看護実習室において、グループごとに福祉用具の活用と使用の目的について演習を行う。 ・演習の学びをレポートにまとめて提出する。 （A4 11ポイント 明朝体 40文字 40行2枚まで 表紙を付ける）</p> <p>第4回 在宅看護技術 疾患別の観察技術① グループ学習（1-5G、6-10Gの入れ替え制で実施） 〔調べ学習〕 ・担当する疾患のついて調べる。 ・病態生理、治療、看護のポイント</p> <p>第5回 在宅看護技術 疾患別の観察技術② グループ学習（1-5G、6-10Gの入れ替え制で実施） 〔グループ演習〕 ・担当疾患を想定したロープレ演習（療養者の状況を設定し、初回訪問看護の場面を設定する） ・観察の視点（病状、医療処置の内容、ADL・IADL、介護状況）について、学びをまとめる</p> <p>第6回 在宅看護技術 疾患別の観察技術③ グループ学習のまとめ ・担当した疾患の調べ学習の内容、演習から学んだ観察、ケアのポイントをPPTにまとめ、発表する。 ・発表5分、質疑3分 ・PPTをデータで提出</p> <p>第7回 在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療① ・呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患等）と在宅酸素療法 ・在宅栄養管理（在宅中心静脈栄養、経管栄養）と感染症予防と安全管理</p> <p>第8回 在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療② ・神経難病（筋萎縮性側索硬化症等）と在宅人工呼吸療法</p> <p>第9回 在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療③ ・循環器系疾患（脳血管疾患、心疾患、腎疾患）、代謝性疾患（糖尿病）と在宅服薬管理、自己注射、CAPD</p> <p>第10回 在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療④ ・筋・骨格系疾患（パーキンソン病、関節リウマチ、脊髄小脳変性症、脊柱管狭窄症、後縦帯骨化症等）と在宅リハビリテーション、住宅改修、移動福祉用具</p> <p>第11回 在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療⑤ ・在宅看護に求められる疾患の理解と在宅医療のまとめ ・DVD等により理解の促進を図る。</p> <p>第12回 在宅医療・看護技術① グループ学習（1-5G、6-10Gの入れ替え制で実施） 〔調べ学習〕</p>

第13回	在宅医療機器の特徴について調べ学習を行い知識としてまとめる。 (Nursing Skillの活用による個人学習)
第14回	在宅医療機器の操作、看護技術演習を行う。 ・シミュレーター学習 在宅医療・看護技術③ グループ学習のまとめ
第15回	在宅医療機器の取り扱い、看護のポイントについての調べ学習および演習からの学びをレポートにまとめて提出 （A4 11ポイント 明朝体 40文字 40行2枚まで 表紙を付ける） 障害者の福祉制度（障害者総合支援法） ・障がい者の在宅療養を支える制度と社会資源 ・障がい者総合支援法による在宅サービスと施設サービスの理解 ・在宅難病療養者を支える制度と社会資源 難病療養者に対する制度の理解
授業の目的・到達目標	<p>疾病や障害をもちながら自宅で療養している対象に特徴的な健康障害を理解し、対象の自立・自律を促進しQOLを維持・向上させていくために在宅療養支援体制と看護を展開するうえでの基礎的看護について修得する。</p> <p>・生活の場における「医療ケア」、「生活ケア」の特徴を理解できる。 ・慢性疾患をもつ療養者とその家族への援助方法を理解できる。 ・神経難病のある療養者（小児含む）とその家族への援助方法を理解できる。 ・認知症がある療養者と家族への援助方法を理解できる。 ・終末期にある人とその家族への援助方法を理解できる。</p>
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	系統別看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 写真でわかるシリーズ 写真でわかる訪問看護（改訂2版） インターメディアカ
参考書	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版
評価基準及び成績評価方法	筆記試験100%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	在宅看護方法論Ⅱは、在宅看護に必要な疾患の実践的な看護技術、医療・看護・福祉の関わる制度の理解、ケアマネジメントの理解など幅広い知識・技術が求められます。臨床看護学のすべての看護学領域が関係する分野ですので、授業時間以外の自己学習時間を十分に活用して、予習・復習を行って、授業に臨んでください。
履修登録条件	

講義科目名称：家族看護論

英文科目名称：Family nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	1単位	必修	講義
担当教員				
佐藤 正子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		在宅看護論	
授業概要	患者のケアにおいては、専門職だけでなく家族の果たす役割が重要な位置を占めている。これらの家族を看護の対象として捉え、家族援助の方法を学習する。授業では、①家族の発達と危機、②家族員の健康問題によって生じる家族の問題、③家族機能をシステムとしての捉える方法、家族のセルフケア能力を高める援助、⑤家族看護に関する主な理論やモデルを学習する。そして、家族看護における看護専門職の役割について考察する。			
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 家族看護論とは ○「家族」とは ○家族の機能・形態の変化 ○家族看護論の発展と動向</p> <p>第2回 家族看護論における対象の理解 ① 発達する家族 システムとしての家族</p> <p>第3回 家族看護論における対象の理解 ② 家族の理解 家族像の形成</p> <p>第4回 家族看護論における看護実践 ① 健康な家族についての考え方 家族とのパートナーシップ</p> <p>第5回 家族看護論における看護実践② 代表的なアセスメントモデル、家族を援助するときの基本姿勢</p> <p>第6回 家族看護実践と社会的・文化的背景 ①家族と文化 家族と地域社会</p> <p>第7回 家族看護実践に役立つ考え方 ① 実践例</p> <p>第8回 家族看護実践に役立つ考え方 ② 実践例 まとめ</p>			
授業の目的・到達目標	<p>家族および家族支援に関する諸理論を学び、家族の持つセルフケア能力を高める援助方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象としての家族を理解できる。 ・現代社会における家族について理解できる。 ・家族アセスメントの方法と家族の援助方法について理解できる。 ・家族看護における看護職の役割を理解できる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。</p>			
教科書	山崎あけみ他：家族看護学、南江堂、2015。			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	小テスト40％ 筆記試験60％			
達成度の伝達	少テストを毎回実施する。配布された結果一覧により達成度を自分で確認する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	○授業は、各領域実習終了後に集中的に行います。臨地実習での経験を振り返り、家族の問題をイメージしながら学んで下さい。 ○オフィスアワー：授業開講日の昼休み時間 大前キャンパス2号館2階 佐藤研究室			
履修登録条件				

講義科目名称：在宅看護論実習

英文科目名称：Home care nursing practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	3年次	2単位	必修	実習
担当教員				
佐藤正子、鈴木育子、中村史江、沼田加代、川久保和子、斉藤利恵子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		在宅看護論	
授業概要	<p>居宅等で療養する訪問看護利用者とその家族を総合的に理解し、安定した療養生活を継続するために必要な看護援助の実際と、在宅療養生活を支援する地域包括ケアシステムについて、主に訪問看護ステーションを拠点として学習する。</p>			
授業計画	<p>実習期間：平成28年5月16日～12月2日 実習時間：8時30分～16：00 実習場所：訪問看護ステーション 地域包括支援センター 社会復帰施設</p>			
授業の目的・到達目標	<p>目的 地域の居宅等で生活する療養者とその家族を総合的に理解し、安定した療養生活を継続するために必要な看護を実践できる基礎能力を養う。</p> <p>到達目標 1. 在宅療養者とその家族を総合的に理解する。 2. 生活の場で展開される看護活動の実際を理解する。 3. 退院から在宅療養開始・継続するための支援体制と看護師の役割が理解できる。 4. 地域で生活する精神障害者とその家族への支援の実際を理解する。 5. 地域包括支援センターの業務内容と介護予防事業について理解できる。</p>			
教育目標に対する科目の位置付け	<p>教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる」「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を修得する」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。</p>			
教科書	特になし			
参考書	押川眞喜子編 写真でわかる訪問看護 インターメディアカ 2016。			
評価基準及び成績評価方法	<p>(1) 出席状況、実習記録、実習態度、実習事前学習の状況から総合的に評価する。 (2) 実習評価表に基づき、実習指導者の意見と(1)の内容から教科担当教員が評価する。 (3) 行動目標を評価内容とし、1～4点の4段階で評価し、60点以上を合格とする。</p>			
達成度の伝達	記録提出物にコメントする。個人面接を行い達成度を伝える。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	授業で配布した資料の全てをファイルして持参する。実習前に知識の確認テストを実施する。			
履修登録条件				

講義科目名称：公衆衛生看護学概論

英文科目名称：Introduction to public health nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
沼田 加代				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		

授業概要	健康の概念を理解し、公衆衛生看護が果たす役割について理解する。公衆衛生看護の対象となる人や看護が行われる場の特性について理解し、あらゆる健康レベルにある人へのプライマリヘルスケア及びヘルスプロモーションにおける保健医療活動について学ぶ。また、歴史の変遷や法令、地域保健福祉行政について理解し、公衆衛生看護活動の展開についてその基礎を学び、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ、Ⅱの科目で具体的な内容につながるよう学習をすすめる。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 公衆衛生看護学とは① 公衆衛生看護学の理念と目的、公衆衛生看護の倫理</p> <p>第2回 公衆衛生看護学とは② 公衆衛生看護学の概念：健康の概念、予防と公衆衛生看護、日本の健康政策</p> <p>第3回 公衆衛生看護学とは③ 公衆衛生の定義：ヘルスプロモーションとプライマリヘルスケア</p> <p>第4回 公衆衛生看護学とは④ 公衆衛生看護の変遷</p> <p>第5回 公衆衛生看護学とは⑤ 保健医療福祉システム：公衆衛生行政、公衆衛生看護と法体系</p> <p>第6回 公衆衛生看護活動① 公衆衛生看護活動の対象</p> <p>第7回 公衆衛生看護活動② 公衆衛生看護活動の場、活動内容、活動方法とその特性</p> <p>第8回 公衆衛生看護活動③ 社会環境の変化と健康課題：社会情勢の変遷、生活と健康、環境</p> <p>第9回 公衆衛生看護活動④ 保健指導：目的・対象、特徴、方法と選定</p> <p>第10回 公衆衛生看護活動⑤ 保健行動：保健行動とは、保健行動と行動変容、セルフケア行動</p> <p>第11回 公衆衛生看護活動⑥ 公衆衛生看護活動の場と特性：在宅看護、産業保健、学校保健</p> <p>第12回 公衆衛生看護の展開① 対象別公衆衛生看護活動：母子保健活動</p> <p>第13回 公衆衛生看護の展開② 対象別公衆衛生看護活動：成人保健活動、高齢者保健活動、難病の保健活動、障害者（児）保健活動</p> <p>第14回 公衆衛生看護の展開③ 対象別公衆衛生看護活動：精神保健活動、感染症の保健活動、災害と保健活動</p> <p>第15回 公衆衛生看護活動の展望 公衆衛生看護活動の今後の展望</p>
授業の目的・到達目標	健康の概念、公衆衛生看護の対象や公衆衛生看護活動について理解し、公衆衛生看護活動の展開について基礎を学ぶ ・公衆衛生看護学活動の理念・目的・概念・対象について理解できる。 ・あらゆる健康レベルにある対象へのプライマリヘルスケア及びヘルスプロモーションにおける保健医療活動について理解できる。 ・歴史の変遷や法令、地域保健福祉行政について理解し、公衆衛生看護活動の展開についてその基礎を理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学。j p（第4版）、インターメディカル。
参考書	標 美奈子,他 著：《標準保健師講座1》、公衆衛生看護学概論、医学書院。 津村 智恵子,他 編：公衆衛生看護学、中央法規出版。 厚生統計協会著：国民衛生の動向、厚生統計協会。
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、レポート課題20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。前回の授業理解度を課題シートから解説する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：健康教育相談論

英文科目名称：Health education counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
野口 由美子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		

授業概要	あらゆるライフステージにある対象者が健康の保持増進をしながら生活するための援助方法である健康相談及び健康教育についてその基礎的知識・技術・態度を学習する。 健康教育や健康相談のニーズについて、あらゆる側面からアセスメントする方法について理解し、対象者の健康レベルをふまえた援助方法について学ぶ。特に対象者自身の能力を促進し、自ら課題を解決して行くことができるような支援について学習する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス ヘルスプロモーションと健康教育 予習：ヘルスプロモーションの定義 復習：健康教育にとってヘルスプロモーションの概念はなぜ重要なのか グローバル社会と健康問題</p> <p>第2回 環境汚染、新たな感染症、災害、犯罪 予習：環境問題、新興感染症、災害や犯罪が健康にどのように影響すると考えるか 復習：健康への影響とその対策についての自分の考え リスク行動と健康障害</p> <p>第3回 飲酒、喫煙、薬物乱用、性感染症、歯科口腔疾患、 予習：飲酒、喫煙、薬物乱用、性感染症、歯科口腔疾患の健康問題はどのようなものか 復習：健康への影響とその対策についての自分の考え</p> <p>第4回 生活習慣の疫学・病態・予防 予習：悪性新生物、糖尿病、循環器疾患、アレルギー疾患 復習：それぞれの疾患の原因、症状、治療、看護についてのまとめ 復習：それぞれの疾患の予防法</p> <p>第5回 保健行政と支援システム 学校保健と地域保健の役割 予習：学校保健と地域保健の違い 復習：講義での学びと考察</p> <p>第6回 生涯保健 小児保健、成人保健、障害者のQOLと保健・福祉 予習：小児、成人、障害者の看護や保健について今までの学んできた内容と自分が感じているイメージ 復習：小児、成人、障害者のQOLとは何か、自分の考えをまとめる</p> <p>第7回 ライフスタイルと健康教育 身体機能を高めるライフスタイルと健康予備能力を高めるライフスタイルと、健康教育 予習：ライフスタイルとは何か 復習：ライフスタイルに働きかける健康教育についての自分の考え</p> <p>第8回 健康教育相談活動の基本理解 健康教育相談活動の目的および方法 予習：自分が考える健康教育相談活動のイメージ 復習：健康教育相談の対象者のアセスメントの必要性和健康教育のテーマの選択に必要なこと</p> <p>第9回 健康教育相談活動と支援体制 健康教育相談活動と支援体制、協働、役割 予習：健康教育活動をしている場や機関にどんなものがあるか 復習：健康教育相談活動の機能・役割と、保健行政と支援システムについて理解できたこと</p> <p>第10回 健康教育相談活動に必要な理論と技法 コーディネーター型、カウンセリング技法 予習：コーディネーター、カウンセリングとは何か 復習：コーディネーター型、カウンセリング技法の重要性と保健師の役割</p> <p>第11回 様々な場における健康教育相談活動① 学校における健康教育相談活動 予習：学校保健の講義で学んだ事の復習 復習：学校における健康教育相談活動の目的、対象者、方法、特徴、保健師の役割について理解できたこと</p> <p>第12回 様々な場における健康教育相談活動② 医療場における健康教育相談活動 予習：医療場における保健師の役割についてのイメージ 復習：医療場における健康教育相談活動の目的、対象者、方法、特徴、保健師の役割について理解できたこと</p> <p>第13回 様々な場における健康教育相談活動③ 地域における健康教育相談活動 予習：地域における保健師の役割についてのイメージ 復習：地域における健康教育相談活動の目的、対象者、方法、特徴、保健師の役割について理解できたこと</p> <p>第14回 様々な場における健康教育相談活動④ ピアサポートによる健康教育相談活動 予習：ピアサポートとは何か 復習：ピアサポートの機能と利点</p> <p>第15回 まとめ 健康教育相談活動の課題と展望</p>
授業の目的・到達目標	あらゆるライフステージにある対象者の健康の維持増進のための援助方法の一つである健康相談及び健康教育について、その基礎的知識・技術を学ぶ。

	<ul style="list-style-type: none"> 健康教育相談活動の目的・理論・方法について理解する 健康教育相談活動の機能・役割と、保健行政と支援システムについて理解する。 さまざまな場における健康教育相談活動について理解する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する。」から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	標準保健師講座2 地域看護技術 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、課題レポート20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：学校保健

英文科目名称：School health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	選択	講義
担当教員				
鎌田 尚子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学	養護教諭一種免許状	

授業概要	<p>児童、生徒、学生及び幼児並びに職員の健康の保持増進に資する学校保健における養護教諭及び看護職の役割について学ぶ。教師の倫理綱領案を学び、自他の生命と人権の尊重、心身の発達と教育に生かす。</p> <p>学校保健の変遷や学校保健を取り巻く法令等を学習し、近年における子どもの健康課題とヘルスプロモーションの実践について理解する。</p> <p>子どもが学校生活を過ごす学校環境や養護教諭の職務について理解し、養護教諭が行う健康教育の実践について学ぶ。また、関連職種との連携・協働をふまえた地域（コミュニティ）、行政、家庭等とのネットワークの構築について学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 学校保健の歴史、ライフステージと国の保健行政制度、学校保健と地域保健の連携</p> <p>第2回 健康と教育に関する法体系、学校保健安全法、健康観の開発「健康とは」についての捉え方</p> <p>第3回 学校保健の領域構造及び役割と機能、保健教育－学校教育法、教育課程、「生きる力」の学力観と観点別学力の目指すものを学習指導要領－総則、教科、道徳、特別活動、総合的な学習、保健管理－学校保健安全法、組織活動</p> <p>第4回 中教審答申と現代的健康課題と養護教諭、学校環境衛生基準の実施計画</p> <p>第5回 保健管理と健康診断、意義、項目と技術基準、心・腎検診、生活管理指導表、</p> <p>第6回 危機管理、学校感染症対策、感染予防三原則、特異症状、学校安全管理と安全教育</p> <p>第7回 学校保健安全計画の立案と組織活動、教育計画との調整および教育活動・校内体制 チーム学校のマネジメント</p> <p>第8回 保健管理と定期健康診断の結果、情報処理、事後措置、健康相談、保健指導、広報</p> <p>第9回 健康教育と行動変容理論、行動の背景要因、行動診断・環境診断・教育診断</p> <p>第10回 学習指導要領－保健学習・保健指導・総合的な学習・道徳教育の指導、日常的な保健指導</p> <p>第11回 「生きる力」と健康教育、ライフスキル、ライフスタイルの行動目標、エムパワーメント</p> <p>第12回 保健指導のための指導案、教材研究、キャッチコピーの意味－指導目標・評価目標一経過評価、結果評価、総合評価</p> <p>第13回 保健だよりの作成と自己講評、掲示物、情報の教材化における諸注意</p> <p>第14回 5分間保健指導の発表と体験授業の講評、評価方法</p> <p>第15回 学校保健委員会と校内体制、ロールプレイによる模擬学校保健委員会</p>
授業の目的・到達目標	<p>児童生徒が心身ともに健康な発育発達を遂げるための学校保健活動の実践および包括的健康支援を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康問題およびヘルスプロモーションの実践がわかる。 学校保健における養護教諭の役割と機能がわかる。 児童生徒の健康支援のための、保健・医療・福祉と学校保健との連携がわかる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる養護教諭の判断および看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	学校保健ハンドブック第6次改訂、教員養成系大学保健協議会、ぎょうせい
参考書	新しい健康教育 日本健康教育士養成機構 保健同人社、国民衛生の動向 厚生統計協会
評価基準及び成績評価方法	課題レポート40%、科目試験60%
達成度の伝達	模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	配布資料、ノートを整理する。

講義科目名称：産業保健

英文科目名称：Occupational health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	選択	講義
担当教員				
大澤 真奈美				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	
授業概要	あらゆる職業に従事する人々の健康を維持・増進させる産業保健活動について学ぶ。 職業に起因する健康障害を予防するための労働衛生対策と労働衛生管理体制、人々の健康を維持・増進するために組織的に行う健康支援活動である産業保健活動の実践について理解し、労働衛生行政や産業保健の歴史の変遷をふまえ、近年の産業保健における課題について考察する。			
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス・産業保健の目的と変遷 産業保健の目的、労働衛生対策の変遷</p> <p>第2回 産業保健に関わる法制度と労働衛生の実態 労働基準法、労働安全衛生法等、業務上疾病と災害の現状、労災保険制度</p> <p>第3回 労働衛生管理体制と産業保健活動 事業場の労働衛生管理体制、産業保健活動における3管理（作業環境管理・作業管理・健康管理）</p> <p>第4回 事業場における健康管理 事業場における健康管理のしくみ（健康診断、事後措置、保健指導、適正配置）、健康管理における看護職の役割、労働衛生マネジメントシステム</p> <p>第5回 労働衛生対策の行政機構と地域における体制 日本の労働衛生行政、地域における体制、国の支援事業（中小企業対策等）、小規模事業場の課題</p> <p>第6回 職場の健康づくりメンタルヘルス対策と産業保健活動 トータルヘルスプロモーション、産業保健におけるヘルスプロモーション、職場におけるメンタルヘルス対策</p> <p>第7回 職業性疾病予防対策と産業保健活動 化学物質、石綿、粉じん、物理的因子（電離放射線、騒音障害等、腰痛、VDT等）による健康障害防止対策</p> <p>第8回 健康確保対策・快適職場づくり対策と産業保健活動 職場における受動喫煙防止対策、過重労働における健康障害防止対策、快適職場の形成等</p>			
授業の目的・到達目標	<p>あらゆる職業に従事する人々の健康を維持増進させるための産業保健活動について理解し、産業看護職としての機能と役割について自己の考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人々の特徴と職場における健康管理について説明できる。 ・日本の労働者が抱える健康課題の特徴と予防対策を理解できる。 ・産業保健活動における看護職の職務と、展開方法について理解できる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	特に指定しない			
参考書	授業中に適宜紹介する			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験100%			
達成度の伝達	筆記試験の結果を開示する			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：地域ケアシステム論

英文科目名称：Local care system

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
渡邊 いよ子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	
授業概要	予防からターミナルケアまでの支援を必要とする人々が、地域で生活するための継続的・包括的な支援システムについて学ぶ。 そのサービスが行われる組織・機関と、各専門職種、及び地域の住民組織や当事者組織の役割について学習し、どのような連携のもとサポートシステムを構築しているのか、その実際について理解する。また、地域ケアシステムをつくるために必要なマネジメント能力及びコーディネイト能力を駆使したネットワークづくりについて学ぶ。			
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 地域ケアシステムとは、地域ケアシステムの理念・目的、地域ケアシステム構築に必要な基本概念 教科書の該当箇所を予習しておく</p> <p>第2回 地域ケアシステムの実践 地域における保健医療福祉システムの実践、地域ケアシステムの発展過程とシステム構築の要素 教科書の該当箇所を予習しておく</p> <p>第3回 地域組織活動の展開と育成 地域組織の概念、歴史的背景、理論と方法論 グループ育成とその支援、地域ケアシステムにおけるグループ支援の位置づけ 教科書の該当箇所を予習しておく</p> <p>第4回 セルフヘルプグループの支援 セルフヘルプグループとは、セルフヘルプグループの育成と保健師の役割 教科書の該当箇所を予習しておく</p> <p>第5回 住民との協働 教科書の該当箇所を予習しておく</p> <p>第6回 地域保健活動計画 保健師活動と計画策定方法と理論、保健活動計画と保健福祉行政、計画の推進と評価 教科書の該当箇所を予習しておく</p> <p>第7回 地域保健活動計画の実践 アセスメントの実践、問題の明確化と計画づくり、実施・評価</p> <p>第8回 まとめ 地域ケアシステムにおける保健師の機能と役割、地域ケアシステムの今後の課題</p>			
授業の目的・到達目標	<p>疾病予防からターミナルまで支援を必要とする人々が、地域で生活するための継続的・包括的な支援システムについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアシステムの定義・目的・対象および地域看護の基盤となる理論を学び、その必要性や展開方法を理解できる。 ・地域における看護活動を展開するにあたって他職種との連携や調整機能を理解する。 ・地域ケアシステムにおける看護職の機能と役割を考察することができる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	標準保健師講座 巻2 地域看護技術 中村由美子他著 医学書院 国民の福祉と介護の動向 2014/2015年版（厚生統計協会）			
参考書	関連授業科目「公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論」 授業中に適宜紹介する			
評価基準及び成績評価方法	教科書の該当箇所を予習しておく			
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：公衆衛生看護活動展開論Ⅰ

英文科目名称：Public health nursing practiceⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	選択	演習
担当教員				
渡邊 いよ子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	

授業概要	地域で暮らす人々の健康上の課題を明確にするための分析方法と、アセスメント方法について学習する。顕在化・潜在化した健康上の課題に向け支援するための計画を立案し、評価・修正するプロセスについて理解し、対象と課題に応じた保健活動について学ぶ。また、地域の実情に応じた健康政策の政策形成プロセスにおける保健師の役割について理解し、ヘルスプロモーション理念に基づく地域保健活動の実践について学ぶ。
------	---

授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 地域保健活動① 地域診断過程と保健師活動：地域診断 教科書の該当箇所を予習 足利市及び市政に関して情報収集をしておく</p> <p>第2回 地域保健活動② 地域診断過程と保健師活動：活動・事業計画と保健師の役割 地方自治体における計画策定・施策化と予算 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する 足利市及び市政に関して情報収集をしておく</p> <p>第3回 地域保健管理① 地域保健管理概論、保健師と地域保健管理、地域保健管理の5つの対象、健康危機管理 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第4回 地域におけるグループ支援・組織化① グループ支援、グループ育成支援と組織化、地域活動への発展 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第5回 地域におけるグループ支援・組織化② 住民組織・地域組織の育成、地域ケアシステム 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第6回 地域におけるグループ支援・組織化③ 地域ケアシステム概論 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第7回 地域におけるグループ支援・組織化④ 地域ケアシステムにおけるチームワーク 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第8回 地域保健活動のツール① 家庭訪問：家庭訪問の目的・対象・技術 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第9回 地域保健活動のツール② 家庭訪問：家庭訪問のプロセス（演習） 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第10回 地域保健活動のツール③ 健康相談：健康相談のプロセス、健康相談の目的・対象・技術 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第11回 地域保健活動のツール④ 健康相談：健康相談の技術、健康相談の企画・実施・評価、遺伝子相談 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第12回 地域保健活動のツール⑤ 健康教育：健康教育の目的・対象・技術 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第13回 地域保健活動のツール⑥ 健康教育：健康教育のプロセス（演習） 教科書の該当箇所を予習</p> <p>第14回 地域保健活動のツール⑦ 健康教育：要支援・要介護高齢者および介護者の特徴と現状 教科書の該当箇所を予習 ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活の指定箇所の要約を提出する</p> <p>第15回 まとめ</p>
------	--

授業の目的・到達目標	地域住民の健康上の課題についての分析・アセスメント方法、保健師活動について理解し、また、ヘルスプロモーション理念に基づく地域保健活動の実践と保健師の役割・機能について学ぶ。 ・地域住民の健康課題についてアセスメントし、分析する方法を理解できる。 ・地域住民の健康課題を解決するための計画立案・評価・修正のプロセスを理解できる。 ・保健活動の実践を理解できる。 ・地域の実情に応じた健康政策に形成プロセスにおける保健師の役割を理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」、「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	公衆衛生看護学 荒賀直子他編 インターメディカル 国民衛生の動向2016/2017年版（厚生統計協会） ナーシング・グラフィカ⑦健康支援と社会保障―健康と社会・生活
参考書	授業中に適宜紹介する
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、レポート課題20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業後10分、授業開校日の昼休憩時間 質問は電子メールでも受け付ける
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護活動展開論Ⅱ

英文科目名称：Public health nursing activity deployment II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	選択	演習
担当教員				
沼田 加代				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		

授業概要	公衆衛生看護活動が行われる場と対象者の特性に応じた保健指導について学ぶ。都道府県および市町村における保健活動の実践について学習し、地域で暮らす住民への事業展開と学校・産業における保健活動を理解する。また、ハイリスクストラテジー及びビュレーションストラテジーについて理解し、有効な事業展開をするための分析・評価について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 母子保健活動① 母子保健の動向と対策</p> <p>第2回 母子保健活動② 乳幼児の成長発達と保健指導</p> <p>第3回 母子保健活動③ 母性・父性の保健、予防接種</p> <p>第4回 母子保健活動④ 健康上のリスクを持つ親子への支援と保健指導</p> <p>第5回 成人保健活動① 成人保健施策と保健師活動、成人期の日常生活と生活習慣病</p> <p>第6回 成人保健活動② 特定健康診査と特定保健指導</p> <p>第7回 高齢者保健活動① 高齢者保健対策の動向と現状</p> <p>第8回 高齢者保健活動② 高齢者の健康と生活特性</p> <p>第9回 高齢者保健活動③ 介護予防事業と保健師活動</p> <p>第10回 精神保健活動 精神保健福祉の動向、精神障害者の生活と保健指導、社会病理を背景とする精神的問題</p> <p>第11回 障害者（児）保健活動 障害者（児）の生活と保健指導、権利擁護</p> <p>第12回 難病の保健活動 難病対策の理念、難病患者の生活と地域のサポートシステム</p> <p>第13回 感染症の保健活動① 感染症対策の動向、感染症対策と保健指導</p> <p>第14回 感染症の保健活動② おもな感染症と保健師活動</p> <p>第15回 健康課題をもつ人々への保健活動 虐待や依存症、生活保護対象者の支援</p>
授業の目的・到達目標	地域住民の健康上の課題および公衆衛生看護活動が行われる場と対象者の特性に応じた保健指導について学ぶ。 ・母子・成人・高齢者に対する保健指導および保健活動の方法と実際について理解できる。 ・事例を通じた実践的な保健活動から保健師の機能・役割を理解できる。 ・ライフステージに応じた個人・集団・組織のライフスタイルと健康の関連から有効な保健事業の展開を考えることができる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」、「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」につながる。
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学、j p（第4版）、インターメディカル。
参考書	中谷 芳美,他 著：《標準保健師講座 3》 対象別公衆衛生看護活動, 医学書院。 津村 智恵子,他 編：公衆衛生看護学, 中央法規出版。 厚生統計協会著：国民衛生の動向, 厚生統計協会。
評価基準及び成績評価方法	筆記試験80%、レポート課題20%
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：健康相談活動の理論と演習

英文科目名称：Health consultation and counseling activity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
鎌田 尚子、中村朋子、福島きよの				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学		養護教諭一種免許状

授業概要	児童生徒が健康を保持し、健全に成長・発達を遂げるために行う養護教諭の健康相談活動の実際について学習する。保健室を訪れる児童生徒の心身の健康問題に対応するための相談、支援、ケアについて総合的に学習する。特に児童生徒自身の能力を促進し、自ら課題を解決して行くことができるような支援について学習する。また、養護教諭の倫理綱領、校内・校外の専門家、専門機関との連携、予防のための地域や行政、ボランティアとの連携についても事例の演技を通してアクティブに学習する。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 用語の定義：健康相談/法、健康相談活動/答申・免許、教育相談、カウンセリング、ヘルスカウンセリング、保健室利用の実態、保健室の意義と沿革、保健室登校、発達障害/特別支援の子どものニーズ</p> <p>第2回 アクティブラーニング、自己理解、他者理解、生涯設計の多様性 班編成</p> <p>第3回 健康相談活動の理論とプロセス、保健室の機能の活用 「犬に咬まれた」事例、救急体制と関連図の書き方。「不登校の事例」</p> <p>第4回 健康相談活動の実際：観察、傾聴、アセスメント、問題の気づき、問題背景 「アレルギー事例」「セクシュアリティとLGBTQ」</p> <p>第5回 「疲れた、だるい」症状-心因、優先順位、背景要因、「デブ、ヤセ」嫌がらせ、10kgの激やせ</p> <p>第6回 気持ち悪い「ノロウイルス集団感染」一症状、心因、優先順位、背景要因、初動、感染予防、保健指導、外国人母子に検尿・指導</p> <p>第7回 疲れた、やる気がでない、新学期の朝会卒倒、脳貧血、その他一症状、心因、優先順位、背景要因、養護診断</p> <p>第8回 いじめ・いじめられ、暴力一症状、心因、優先順位、背景要因「引きこもり事例」-支援と情報の関連図</p> <p>第9回 「過換気事例」、「虐待の疑い児童」家族の問題、家庭の問題一症状、心因、優先順位、背景要因</p> <p>第10回 「妊娠・中絶したい」「出産したい」自傷、拒食、過食一症状、心因、優先順位、背景要因</p> <p>第11回 「川崎病」後遺症 「性被害とPTSD」一症状、心因、優先順位、背景要因</p> <p>第12回 性的な問題、デートDV の対処法 虚言癖一症状、心因、優先順位、背景要因</p> <p>第13回 幻聴、幻視、パニックの暴力からの緊急避難、多動性パニックへの対応方法</p> <p>第14回 養護教諭の倫理綱領、倫理問題と相談活動の進め方、守秘義務 校内体制 一管理職、担任、主幹教諭、学校医、スクールカウンセラー等々との連携</p> <p>第15回 校外、地域の専門家、専門機関との連携、予防のための地域や行政、ボランティアとの連携 チーム学校の動き方、連携・協働</p>
授業の目的・到達目標	児童生徒に観察される心身の不調や発達上の健康問題、社会的・福祉的・環境問題について、その訴えや症状の生理学的・心理学的・社会的な機序と背景要因を理解し、相談・支援・ケアの理論と実際を学ぶ。 ・養護教諭の行う健康相談活動の特徴が分かる。 ・保健室を訪れる児童生徒に多く見られる訴えや健康問題の概要を理解し、関連図が書ける。 ・個々の訴えや症状に対し、背景要因も含めたアセスメントができる。校内・校外の専門家や専門機関との連携が取れる。 ・児童生徒自らが、自己の心身や生活、学習の課題に気づき解決行動がとれるような支援を考えて発表できるようにアドボカシイする。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる養護・教育・看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引、 文部科学省 子供たちを児童虐待から守るために-養護教諭のための児童虐待対策マニュアル-、 日本学校保健会
参考書	健康相談活動の理論と実際 三木とみ子、徳山美智子編著 ぎょうせい
評価基準及び成績評価方法	アクティブラーニング（60%）、省察、熟慮レポート(30%)、筆記試験（10%）

達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントまたは、口頭面接。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：養護概説

英文科目名称：Theory of "Yogo" Teachers/ School nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	2単位	選択	講義
担当教員				
鎌田 尚子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	公衆衛生看護学	養護教諭一種免許状	
授業概要	教育職員免許法に示された「養護概説」の趣旨、「養護」の本質と養護学について、概念や歴史的沿革、国際的視点等を学ぶ。また、養護教諭の「養護を掌る」について子どもに説明ができる、養護教諭の倫理綱領を説明できる、年間の保健室経営計画の立案・実施・評価ができる、児童・生徒の健康問題に対して保健指導の指導案を書き、実践的な指導ができる等を目指し、具体的・実践的な知識を習得する。			
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 養護の本質と概念、「教授・訓練・養護」の教育学における意義と児童生徒の特性</p> <p>第2回 日本の養護教諭制度の沿革、社会の要請、職制運動、大学養成から大学院教育、専門職</p> <p>第3回 学校保健安全法、中教審答申と養護教諭への期待、学校長のリーダーシップと課題解決</p> <p>第4回 養護教諭の職務、学校保健の推進と保健室経営、情報処理、アセスメント、企画力、実行力、調整・評価力</p> <p>第5回 児童生徒の発育発達と健康課題、アセスメント、健康観察、救急処置と校内体制</p> <p>第6回 健康診断の計画と実施、健康相談、技術的基準、実施計画の立案と評価、事前事後指導、事後措置</p> <p>第7回 学習指導要領一保健指導、保健学習（指導案の作成）、指導内容、教材、指導方法、評価</p> <p>第8回 保健室利用と救急処置、保健指導、主訴、症状のアセスメント、情報収集、養護診断</p> <p>第9回 健康相談活動：保健室登校、いじめ、心身の健康問題の背景要因、職務の特質を活用、対応</p> <p>第10回 環境衛生の管理、定期検査、日常検査、臨時検査一検査基準と技術、判定基準</p> <p>第11回 安全点検、安全管理と安全教育、危機管理体制と予防教育、食育と学校給食</p> <p>第12回 健康教育、実践保健活動、現代的健康課題のワークショップをまとめる</p> <p>第13回 現代的健康課題の発見、解決の試案、ワークショップ、研究授業①</p> <p>第14回 現代的健康課題の発見、解決の試案、ワークショップ、研究授業②</p> <p>第15回 ヘルスプロモーションスクールと養護教諭の新たな役割、児童生徒、保護者の参加型、学校保健委員会、組織活動</p>			
授業の目的・到達目標	<p>学校における保健管理・保健教育・組織活動の実際と養護教諭の役割を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における保健管理・保健教育・保健組織活動の実際がわかる。 ・学校教育における養護教諭の役割と機能について説明できる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「対象者；幼児・児童・生徒の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた養護実践能力・看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「保健医療福祉チームにおける養護教諭の専門職・看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成」につながる。			
教科書	四訂養護概説 三木とみ子編 ぎょうせい			
参考書	新訂版 学校保健実務必携（第3次改訂版） 第一法規			
評価基準及び成績評価方法	筆記試験（70%）、課題レポート（30%）			
達成度の伝達	模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	配布資料、ノートを整理すること。			
履修登録条件				

講義科目名称：公衆衛生看護管理論

英文科目名称：Public health nursing management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	1単位	選択	講義
担当教員				
沼田 加代				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	

授業概要	公衆衛生看護活動の根拠となる法令や根拠をふまえたうえでの管理について学ぶ。公衆衛生看護活動における業務管理、人事管理、職位管理、施設管理について学習し、ヘルスケアの質を保証するための評価や地域管理について理解する。また、近年における健康上の課題に関連した健康危機管理における看護職の役割と関連職種との連携・協働について理解し、特に行政における保健師活動に関連したリスクマネジメントの実践について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、公衆衛生看護管理とは 公衆衛生看護管理の目的と機能、地域ケアの質保証</p> <p>第2回 公衆衛生看護管理の対象 組織運営と管理、人事管理、予算管理</p> <p>第3回 継続教育と専門的自律 現任教育の目的と方法、人材育成方針</p> <p>第4回 健康危機管理対策① 健康危機管理の概念</p> <p>第5回 健康危機管理対策② 健康危機管理と保健師活動</p> <p>第6回 感染症集団発生時の保健活動 感染症調査、集団発生時の保健活動</p> <p>第7回 災害と保健活動① 災害の定義と災害時保健活動の目的</p> <p>第8回 災害と保健活動② 災害と保健師活動</p>
授業の目的・到達目標	保健師として地域住民の健康レベルの向上や質の高いサービスを遂行できるように組織運営・管理、健康危機管理、災害時保健活動、健康危機予防について学ぶ。 ・公衆衛生看護管理の理念、しくみを理解できる。 ・公衆衛生看護管理の関連法令を理解できる。 ・公衆衛生看護管理が計画、組織、資源を統制する一連のプロセスであることを理解できる。 ・保健師に求められる管理能力について理解できる。 ・健康危機管理、災害発生と保健活動、健康危機の予防について理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学、j p（第4版）、インターメディカル。
参考書	標 美奈子,他 著：〈標準保健師講座1〉 公衆衛生看護学概論, 医学書院。 中谷 芳美,他 著：〈標準保健師講座3〉 対象別公衆衛生看護活動, 医学書院。 津村 智恵子,他 編：公衆衛生看護学, 中央法規出版。
評価基準及び成績評価方法	課題レポート100%
達成度の伝達	レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護学実習 I

英文科目名称：Public health nursing practice 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	2単位	選択	実習
担当教員				
沼田加代、萩原寿枝、渡邊いよ子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	

授業概要	地域の人々の健康課題を解決するために、市町村の地域特性に基づき展開される公衆衛生看護活動の実践能力を養う。地域の人々に身近な保健サービスの拠点である市町村保健センターの機能と役割を理解し、個人・家族・集団・組織を対象とした地域看護診断の過程を通して、健康課題を解決するための保健活動の展開を学ぶ。さらに、対人保健サービスの援助技法を習得し、地域の社会資源を活用した生活支援の実践と公衆衛生看護活動の手段としての家庭訪問の意義と地域の健康課題の理解との関連づけを学ぶ。
授業計画	<p>実習期間：第1グループ 平成30年1月15日～1月26日 第2グループ 平成30年1月29日～2月9日 第3グループ 平成30年2月13日～2月23日</p> <p>実習場所：栃木県内各市町村保健センターなど</p>
授業の目的・到達目標	1. 地域保健医療福祉体系における市町村の機能と市町村保健師の役割が理解できる。 2. 地域看護診断の過程を通して、地域に暮らす人々の健康特性にあわせ展開される保健活動が理解できる。 3. 個人・家族・集団・組織に対して健康課題解決のための援助技法を活用した生活の支援が実践できる。 4. 健康課題の解決に向けて、地域住民や関係機関、他職種と連携・協働する意義とその方法が理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学、j p（第3版）、インターメディカル。
参考書	適宜、紹介する。
評価基準及び成績評価方法	実習評価表に基づいて、出席状況・実習態度、実習記録により総合的に評価する。
達成度の伝達	実習記録やレポートにコメントを記入する。
資格情報	保健師国家試験受験資格に関わる臨地実習である。保健師教育課程履修の条件「2年次までの看護師教育課程と保健師教育課程の必修科目および3年次前期の疫学、公衆衛生看護管理論の全ての単位を修得していなければならない。」を満たしていること。
メッセージ・オフィスアワー	栃木県内各市町村の地域特性を理解した上で、市町村保健師の活動を学ぶ。
履修登録条件	

講義科目名称：公衆衛生看護学実習Ⅱ

英文科目名称：Public health nursing practice 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	3単位	選択	実習
担当教員				
沼田 加代、萩原 寿枝、渡邊いよ子				
看護専門科目分	看護の統合と実践分野		公衆衛生看護学	
授業概要	地域保健および産業保健や学校保健における対象集団の特性に基づいた健康の保持増進への支援を理解し、地域全体を捉える視点を持ち、多様な保健活動に対応できる実践能力を養う。公衆衛生活動の中心機関である保健所の機能と役割、働く人々の健康を支援する安全・健康管理体制と産業看護職の役割、学校における保健教育と保健管理の実際と養護教諭の役割、地域における健康増進への支援について学ぶ。さらに、地域保健と産業保健や学校保健との連携について理解し、個人と地域全体を連動させながら展開する健康への支援、また、公衆衛生看護管理の体制理解および健康危機の組織的な未然防止対策と発生時の対応を考察する。			
授業計画	実習期間：平成29年5～7月 実習内容：保健所実習、産業保健実習、学校保健実習			
授業の目的・到達目標	1. 公衆衛生活動の中心機関である保健所の機能と役割が理解できる。 2. 働く人々の健康を支援する安全・健康管理体制と産業看護職の役割がわかる。 3. 学校における保健教育と保健管理の実際と養護教諭の役割が理解できる。 4. 地域における健康増進への支援として保健師が果たす役割と意義が理解できる。 5. 地域保健と産業保健や学校保健との連携について理解し、個人と地域全体を連動させながら展開する健康への支援を考察できる。 6. 公衆衛生看護管理の体制理解および健康危機の組織的な未然防止対策と発生時の対応を考察できる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「地域特性から保健医療福祉ニーズを理解し、地域に貢献できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	荒賀直子他著：公衆衛生看護学、j p（第3版）、インターメディカル、 厚生統計協会著：国民衛生の動向、厚生統計協会、			
参考書	適宜、紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	実習評価表に基づいて、出席状況・実習態度、実習記録により総合的に評価する。			
達成度の伝達	実習記録物やレポートにコメントを記入する。			
資格情報	保健師国家試験受験資格に関わる臨地実習である。保健師教育課程履修の条件「3年次までの看護師教育課程の必修科目と保健師教育課程の必修科目の全ての単位を修得していない場合はならない。」を満たしていること。			
メッセージ・オフィスアワー	栃木県の地域特性を理解した上で保健所保健師の活動を学ぶ。また、本科目は産業保健師と学校保健活動の学びも得ることにより、多様な保健活動に対応できる保健師の資質を習得する。			
履修登録条件				

講義科目名称：看護倫理

英文科目名称：Nursing ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3年次	1単位	必修	講義
担当教員				
池田優子、倉林しのぶ				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		統合領域	
授業概要	人間の尊厳、生命の尊厳と、人間の生存を守るための生命倫理について学び、看護における倫理の重要性について理解する。看護における倫理の歴史の変遷と生命倫理に関わる法令や指針をふまえ、近年にみられる看護倫理に関する課題について学習する。看護の対象となる人の人権と権利擁護について学習し、看護専門職として果たすべき倫理的責任と望ましい行動について考察する。			
授業計画	1 看護倫理の基本的知識/倫理とは何か 【予習】「倫理とは何か」について自分なりに考えてくる 2 被験者保護の歴史と看護倫理の歴史的発展 3 原則の倫理/インフォームド・コンセプトと自律 4 医療現場における倫理的課題 5 身体拘束をめぐる課題と事例から解決に向かう力の源泉を考える 6 臨地実習で学生が直面した倫理的ジレンマと課題の明確化（GW） 7 【予習】一人一人がどのようなことにジレンマを抱えたか、整理しておく 倫理的ジレンマと解決についてのグループ発表 【予習】グループの中で、わかりやすく伝えられるよう、練習しておく 8 まとめ			
授業の目的・到達目標	近年、医療の高度化や複雑化のなかで、多様な倫理的課題が存在する。本講義では、看護倫理の基本的知識を学び、倫理原則や倫理綱領を基盤にしつつ、それだけに頼ることのない倫理的アプローチ方法を探求する。また、実習経験の「統合」として、倫理的課題の実践的解決に向けた道筋を考える力を養う。 ①看護倫理の基本的知識を習得できる。②実習で直面した倫理的課題を明確化できる ③倫理的課題に対してとるべき態度や行動について考えられる			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「人間を総合的にとらえ、高い倫理観をもって調和のとれた人間関係を築くことができる。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「人間の尊厳・権利擁護を基盤に、専門職としての高い倫理観と調和のとれた人間性を備えた人材育成」につながる。			
教科書	特になし			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	①授業への参加度及びその都度の感想で40点 ②「臨地実習でぶつかった倫理的ジレンマとその解決について」のレポートで60点			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	倫理的課題についての感受性を高く持てるように、日々の生活や看護実践を見直せる機会にしていきたいと思います			
履修登録条件				

講義科目名称：医療と安全管理Ⅰ

英文科目名称：Medical care and safety management 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
中村 史江、杉本 厚子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		統合領域
授業概要	医療安全の歴史的変遷と動向について、日本及び国際的観点から理解し、近年の日本における医療安全への取り組みについて学ぶ。 医療事故の発生のメカニズムについて人間工学の視点から理解し、コミュニケーションエラー及びヒューマンエラーを防止するための方法について学習する。 医療安全を効果的に推進し、管理していくために必要とされる能力について理解し、リスクマネジメント及びコンフリクトマネジメントの実践について学ぶ。			
授業計画	<p>第1回 医療におけるヒューマンエラー (中村史江) ・ヒューマンエラーの考え方・医療安全に対する行政の取り組み・医療機関における医療安全対策 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 医療事故発生のメカニズム (中村史江) ・事故発生のメカニズム・看護事故の構造・看護業務と事故発生要因・医療事故の種類と安全対策 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 メディカル・リスク・マネジメント1 (中村史江) ・病院における医療安全の実践：佐野厚生総合病院 MRM 予習：配布資料を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：MRM研修内容、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 メディカル・リスク・マネジメント2 (中村史江) ・病院における医療安全の実践：佐野厚生総合病院 MRM 予習：配布資料を読み、疑問点等を明らかにする。 復習：MRM研修内容、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 リスク管理と危険予知1 コミュニケーションエラーについて学び、チームワークの重要性を理解する (杉本厚子) 予習：ナースングスキルの安全：コミュニケーションに関する部分を見てくる。 復習：ナースングスキル内のテストを行い復習する。理解できない部分は次回授業で質問時間を設けるので質問し理解できないままにしないこと。</p> <p>第6回 リスク管理と危険予知2 危険予知トレーニングKYT (杉本厚子) 予習：ナースングスキルの安全：コミュニケーションに関する部分を見てくる。 復習：ナースングスキル内のテストを行い復習する。理解できない部分は次回授業で質問時間を設けるので質問し理解できないままにしないこと。</p> <p>第7回 リスク管理と危険予知3 コンフリクトマネジメントの実践 (杉本厚子) 予習：ナースングスキルの安全：コミュニケーションに関する部分を見てくる。 復習：事後学習として、授業で学んだことを振り返る。</p> <p>第8回 臨地実習と安全 実習中の事故防止および事故発生時の学生の対応 (杉本厚子) 予習：ナースングスキルの安全：コミュニケーションに関する部分を見てくる。 復習：今後の実習において重要な事項なので、全講義の内容を振り返る。理解できないことはそのままにせず、質問し解決する。</p>			
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全の歴史的変遷と動向について、日本及び国際的観点から理解し、近年の日本における医療安全への取り組みについて学ぶ。 ・医療事故の発生のメカニズムについて人間工学の視点から理解し、コミュニケーションエラー及びヒューマンエラーを防止するための方法について学習する。 ・医療安全を効果的に推進し、管理していくために必要とされる能力について理解し、リスクマネジメント及びコンフリクトマネジメントの実践について学ぶ。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」また「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材」につながる。			
教科書	・統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院			
参考書	・河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー 医学書院 ・川村治子：医療安全ワークブック 医学書院 ・ナースンググラフィカ 看護の統合と実践2 医療安全 メディカ出版 ・ナースングスキル			
評価基準及び成績評価方法	・筆記試験（60％）・レポート課題（40％）			
達成度の伝達				
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	看護実践を行う上で重要な分野であるため、理解できないことはそのままにせず、必ず解決するように学習することを望みます。(杉本厚子)			
履修登録条件				

講義科目名称：医療と安全管理Ⅱ

英文科目名称：Medical care and safety management 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	必修	演習
担当教員				
中村 史江				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野		統合領域
授業概要	医療におけるリスクマネジメントのプロセスについて、事例を用いた演習をとおして理解を深める。リスクマネジメントサイクルについて学習し、リスクの把握、分析、対応、評価の一連の活動について理解する。リスク要因となる人間の行動や環境の状態を早期に発見するために、医療現場に多くみられる手薬、医療機器管理、カテーテル管理、転倒、転落等の事例を用いたKYT（危険予知訓練）を行い、事故防止を目的とした分析や対処の基礎的能力を養う。			
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 事故発生のメカニズム 予習：教科書のp2～38を読み、疑問点を明らかにする。医療と安全管理Ⅰを復習する。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第2回 RCA分析1 予習：教科書のp216～224を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第3回 RCA分析2 予習：教科書のp216～224を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第4回 チューブ管理 予習：教科書のp120～136を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第5回 カテーテル管理1 予習：教科書のp120～136を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第6回 カテーテル管理2 予習：教科書のp120～136を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第7回 輸血事故防止 予習：教科書のp81～93を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第8回 内服薬事故防止 予習：教科書のp94～112を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第9回 注射事故防止1 予習：教科書のp42～65を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第10回 注射事故防止2 予習：教科書のp42～65を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第11回 医療危機管理1 予習：教科書のp66～80を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第12回 医療危機管理2 予習：教科書のp66～80を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第13回 口腔ケアリスク管理1 予習：教科書のp168～174を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第14回 口腔ケアリスク管理2 予習：教科書のp168～174を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p> <p>第15回 演習まとめ 予習：これまでの配布資料および教科書を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し、ノートにまとめる。</p>			
授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.安全管理における必要な知識を学び、重要な言葉を理解する。 2.患者安全・医薬品の安全・医療機器安全に必要な取り組みを理解する。 3.事故を予防する取り組みや事故事例分析の方法を養う。 4.安全のために看護師として、身につけるべき必要能力を理解する。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成」につながる。			
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践(2) 医療安全 川村治子他著 医学書院			
参考書	医療におけるヒューマンエラー 河野龍太郎 医学書院 医療安全ワークブック 川村治子 医学書院 ナースンググラフィカ 看護の統合と実践2 医療安全 メディカ出版			
評価基準及び成績	筆記試験 50％、レポート課題50％			

評価方法	
達成度の伝達	レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	・医療と安全管理Ⅱでは、2年次の医療と安全管理Ⅰおよび関連科目の学習、各論実習を基盤に演習を行います。 ・ナーシング・スキルの授業に該当す各手順の詳細、基本事項を確認し授業に臨むこと。
履修登録条件	

講義科目名称：看護研究

英文科目名称：Nursing research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3年次	1単位	必修	演習
担当教員				
櫻井清美、佐藤正子、佐藤栄子、清水千代子、杉原喜代美、青山みどり、栗田佳江、細谷京子、山下美根子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	統合領域		
授業概要	看護における研究の意義・目的について理解し、看護研究の対象となる事象や基本的な手法について学ぶ。看護研究の過程についてその概要を理解し、文献の検索方法及び文献レビューの方法について学習する。看護研究における概念枠組み、研究デザインについて理解し、データの収集および分析方法について学ぶ。そして結果についての考察や結論のまとめ方について理解し、看護研究をするための基礎的知識を身につける。			
授業計画	<p>第1回 研究とは、研究の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の役割、特徴 2. 看護実践の質向上に必要な研究力 <p>第2回 リサーチクエスト、文献レビューとその方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リサーチクエスト 2. レビューの目的、クリティークの方法 <p>第3回 研究における倫理的配慮</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的配慮の原則 2. 依頼書と同意書 <p>第4回 研究デザインの概要、研究の設計と方法の選択</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究デザインの選択 2. 質的研究と量的研究 3. ミックスメソッド <p>第5回 質的研究①</p> <p>事例研究のデータ収集と分析</p> <p>第6回 質的研究②</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質的記述研究のデータ収集と分析 2. 内容分析のデータ収集と分析 <p>第7回 質的研究③</p> <p>グラウンデッドセオリーのデータ収集と分析</p> <p>第8回 量的研究①</p> <p>実態調査研究（アンケート調査含む）のデータ収集と分析</p> <p>第9回 量的研究②</p> <p>相関研究のデータ収集と分析</p> <p>第10回 量的研究③</p> <p>実験研究（介入研究）のデータ収集と分析</p> <p>第11回 研究を伝える学会発表・論文作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究のまとめ方 2. 研究成果を伝える方法 <p>第12・13回 文献クリティーク</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献を深く読む 2. 文献クリティークの実践 <p>第14回 研究計画書作成方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書の意義 2. 書式と書き方 <p>第15回 研究看護領域の決定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究ゼミナールⅠ・Ⅱ担当教員の研究紹介 2. 研究看護領域の検討・希望提出 			
授業の目的・到達目標	<p>看護における研究の意義・目的を理解し、看護研究を展開するための過程と基礎的な手法を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究を行う価値と重要性を考慮することができる。 2. 自らの関心を深め問題意識を持つことがリサーチクエストとなることが理解できる。 3. 看護研究に伴う倫理的問題を考慮することができ、必要とされる倫理的配慮の内容が理解できる。 4. 看護研究の過程（リサーチクエストの発見、デザインと方法の決定、データの収集、結果の分析・解釈、発表・論文作成）が理解できる。 5. 文献検索ができ、検討ができる。 			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる。」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成につながる。			
教科書	坂下玲子編著：系統看護学講座 別巻 看護研究。医学書院			
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 黒田裕子；黒田裕子の看護研究Step by step。医学書院 2. 小笠原知枝編著；これからの看護研究。スーパールヒロカワ 3. 早川和生編著；看護研究の進め方論文の書き方。医学書院 4. 南裕子編著；看護における研究。看護協会出版会 <p>その他、授業中に適宜紹介する。</p>			
評価基準及び成績評価方法	レポート課題（50％）・ワークへの取り組み（50％）とし総合的に評価する。			

達成度の伝達	レポート課題はコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	1. 受講前にはテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2. 受講後は、その日のうちに必ず復習し課題に取り組むこと 3. 自分の立場で看護研究をとらえ、看護の対象や現象に敏感になり研究への意欲を深めてほしい
履修登録条件	

講義科目名称：看護管理と継続教育

英文科目名称：Nursing management and continued education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	2単位	必修	講義
担当教員				
佐藤 正子、中村 史江				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野	統合領域	

授業概要	良質な看護サービスを提供するための看護管理について学ぶ。 看護管理の対象となる資源について理解し、その管理方法の実際について学習する。看護管理者に必要なリーダーシップ能力について理解し、日本の医療や看護行政及びマーケティングをふまえた上で効果的に管理する方法について学ぶ。また、看護専門職としてのキャリア開発について学習し、看護における現任教育や継続教育、生涯教育の方法や課題について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス 看護管理学の概念・基礎的理論 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp2からp13を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第2回 看護ケアのマネジメント① 安全管理とチーム医療に必要なマネジメント 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp16からp59を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第3回 看護ケアのマネジメント② 日常業務のマネジメント 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp60からp75を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第4回 看護サービスのマネジメント① 組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみ 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp76からp96を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第5回 看護サービスのマネジメント② 看護職者の労働環境 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp110からp117を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第6回 看護サービスのマネジメント③ 看護のマネジメントと診療報酬 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp173からp179を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第7回 看護サービスのマネジメント④ 看護情報活用論 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp128からp134を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第8回 看護サービスのマネジメント⑤ リーダーシップの定義と理論 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp192からp196を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第9回 看護サービスのマネジメント⑤ 看護組織論 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp197からp207を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第10回 看護サービスのマネジメント⑤ 看護管理職の役割 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp85からp87を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第11回 看護を取り巻く諸制度 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp152からp182を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第12回 地域包括ケアシステムと看護管理 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第13回 看護職のキャリア形成① キャリアとは、キャリアの発達、継続教育とは 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp184からp218を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第14回 看護職のキャリア形成② 継続教育の課題と取り組み 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。教科書のp165からp169を読んでくる。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p> <p>第15回 病院における看護管理の実際 予習：教科書の該当する箇所を読み、疑問点を明らかにする。 復習：教科書、配布資料を読み直し課題をまとめる。</p>
授業の目的・到達目標	看護管理の概念と意義を理解し、看護専門職としてキャリア形成の必要性について学ぶ。 ・看護マネジメントに必要な理論とスキルが理解できる。 ・看護管理がすべての看護師の役割であることを理解できる。 ・将来に継続できるキャリア形成のための準備と発展させる方法が理解できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する。」 「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる。」 から配置した看護専門科目群の科目である。DPの「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材育成」「自己の成長をめざし、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成」につながる。
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護管理 上泉和子著 医学書院
参考書	看護学テキスト 統合と実践 看護管理 小林亜美他編 学研

評価基準及び成績評価方法	筆記試験（50％）、課題レポート（50％）
達成度の伝達	筆記試験の模範解答を概説する。レポートはコメントを入れて返却する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	看護管理とは、人々がそれなりの健康やQOLを維持向上していくことを目的として、多様な資源を用いて効果的に効率的に創造的に看護実践を行うことであり、またそうした看護実践が組織的に行われるよう環境を整えて看護職者を支援していくことです。広義には看護に関わる法・制度も含まれます。看護管理があつて初めて質の高い看護実践が生まれます。したがって全ての看護職者が看護管理学の基礎的知識を持っていることが大切です。また日本では地域包括ケアに向け社会保障制度改革が進められています。これからは地域を包括的にとらえ、看護職が果たす役割と看護管理のあり方を検討する視点も求められています。
履修登録条件	

講義科目名称：統合実習

英文科目名称：Integrated practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	2単位	必修	実習
担当教員				
中村史江、清水千代子、細谷京子、杉原喜代美、佐藤正子、櫻井清美、川島美佐子、佐藤栄子、青山みどり、栗田佳江、鈴木育子、沼田加代、富山美佳子、川久保和子、鈴木早智子、島田葉子、斎藤利恵子、宮武陽子、渡邊いま子、石井千晴、尾島喜代美				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	統合実習		

授業概要	看護管理の実際を学び、看護師としての実践力を高めるとともに組織の中での役割を学ぶ。 4年間の集大成の実習と位置づけ、既習の知識・技術を統合し、対象に合わせた看護の実践力の向上を図る。複数の患者へのケアの実際から、ケアの優先度を判断し、安全性や倫理に基づいた看護を体験する。組織の中での役割や他職種との協働の実際から、医療チームの中の看護師の役割を理解する。さらに、看護師として、看護観を持ち、将来に向けて継続的に自らのキャリアデザインを発展できることを目指す。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習グループは、1グループを5～6名の学生で編成する。 ・自己の課題を明確にして、目標を持って実習に臨む。 ・実習開始前の学内でオリエンテーションを受け、事前学習の課題を達成しながら実習に向けて準備を行う。 ・施設毎に組織管理体制について臨地でオリエンテーションを受ける。 ・病棟看護師と一緒に行動し複数の患者の看護を体験する。また、看護師の1日の看護業務を学ぶ。その際、実習時間はフレキシブルとする。 ・看護を展開するにあたり、対象の安全・安楽に留意しながら実施する。 ・カンファレンスは、学生主体で、ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、テーマカンファレンスを開催し、教員、実習指導者から助言を受ける。
授業の目的・到達目標	<p>実習目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理の実際をとおり組織の中での看護師の役割を学ぶとともに、看護実践力を高める。 <p>実習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識・技術を統合し、対象に合わせた看護の実践力を養うことができる。 ・複数の患者へのケアの実際から、ケアの優先度を判断し、安全性や倫理に基づいた看護を理解できる。 ・看護部の役割、看護師長、チーム・リーダー、チーム・メンバーの役割を理解できる。 ・他職種との協働の実際から、医療チームの中の看護師の役割を明確にできる。 ・看護師として、看護観を持ち、自らのキャリアデザインを発展できる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「チーム医療における看護の役割を理解し、他専門職種の人々と協働・連携できる能力を修得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「あらゆる健康段階、ライフステージにある人々に対して看護を展開し、評価できる人材育成」また「保健医療福祉チームにおける看護専門職として自己の責任を自覚し、他職種の人々と協働して社会貢献できる人材」につながる。
教科書	系統看護学講座 看護の統合と実践 (1) 看護管理 上泉和子他著 医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践 (2) 医療安全 川村治子他著 医学書院
参考書	実習中に、適宜紹介する。
評価基準及び成績評価方法	評価は、評価表に沿って総合的に行う。
達成度の伝達	評価表を提示して説明する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：ホスピスケア論

英文科目名称：Hospice care theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
岩崎 紀久子				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野	特定領域	
授業概要	病院・施設・在宅で行われるターミナルケアや緩和ケアに焦点をあて、そのケアを行う看護職の役割について学ぶ。対象者の苦痛や困難を緩和し、尊厳を保ちながら人生の終末を迎えることができるようになるためのケアの実践について学習し、対象者が心の安らぎをもちながら生活を送るための支援について学ぶ。また、関連職種との連携・協働について理解し、対象者のニーズに応じたサポートのあり方について学ぶ。			
授業計画	<p>第1回 死のイメージ、死の概念について 予習：終末期にある人について学習するため、教科書p16～24、p61～p79を読み、予習しておくこと 復習：授業中配布した資料を見直し、終末期にある患者の特徴を復習しておくこと</p> <p>第2回 終末期にある患者の心理・社会的特徴と援助、スピリチュアルペインに対する援助について 予習：終末期患者の全人的苦痛について確認するとともに、教科書p129～p139、p280～p291を読み、予習しておくこと 復習：授業中に提示した事例などからスピリチュアルペインについて復習しておくこと</p> <p>第3回 死をめぐる倫理的課題について 死をめぐると倫理的課題について 予習：倫理に関してこれまでに学習した内容を見直すとともに、教科書p44～p53を読み、死をめぐる倫理的課題について予習しておくこと 復習：授業中に提示した事例等を参考にし、終末期における倫理について復習しておくこと</p> <p>第4回 終末期にある患者の家族への支援－悲嘆、家族に対するグループケアについて－ (予習) 終末期患者の家族の支援を学ぶので、教科書p90～p98、p159～p181を読み予習しておくこと (復習) 授業中に配布したプリント、教科書から危機のプロセスおよび悲嘆について復習しておくこと</p> <p>第5回 ホスピス・緩和ケアの概念と実際、がん患者の身体的苦痛とその緩和の方法 (がん性疼痛) 予習：ホスピス・緩和ケアについて、教科書p4～p15を読み、さらにがん性疼痛について、教科書p191～p204、p246～p260を読み、予習しておくこと 復習：がん終末期に出現する身体症状と緩和の原則について、配布資料、教科書を通して復習しておくこと</p> <p>第6回 がん患者の身体的苦痛とその緩和の方法 (がん性疼痛のマネジメントと看護の役割) 予習：前回に引き続き、がん性疼痛のマネジメントについて学習するので、教科書を読み予習しておくこと 復習：がん患者の疼痛コントロールの重要性について資料、教科書をもとに復習しておくこと</p> <p>第7回 がん患者の身体的苦痛とその緩和の方法 (全身倦怠感に対するケア、呼吸器症状に対するケア) 予習：がん患者に出現する頻度の高い、倦怠感および呼吸器症状について学習するので、教科書p186～p190、p214～p223を読み予習しておくこと 復習：授業で学習した全身倦怠感および呼吸器症状について、症状緩和の方法と看護師の役割について復習しておくこと</p> <p>第8回 ホスピスケアに関する授業全体のまとめと死のシミュレーション 予習：これまでに学習した授業内容について、理解が不十分な点に関しては明確にして授業に臨む 復習：死にゆく人の心理的理解と看護師の役割について自分自身の考えをまとめておく</p>			
授業の目的・到達目標	人生の終末期にある人とその家族の身体的、心理的、社会的問題を理解し、患者の苦痛を全人的苦痛として捉え、患者と家族への援助のあり方について学習する。また患者と家族のQOL (Quality of life) について理解し、QOLの維持・向上に向けた具体的な援助方法について述べる事ができる。加えて、終末期にある患者および家族の死へのプロセスについて学び、死別後の家族の悲嘆に対する援助について理解する。また、終末期におこりやすい身体症状とその具体的な緩和の方法についての理解を深め、看護者の役割について述べる事ができる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	緩和・ターミナルケア看護論 第2版			
参考書	適宜、提示する			
評価基準及び成績評価方法	課題レポート、授業態度等を総合的に評価する。原則としてレポート点60点以上を合格とする。			
達成度の伝達	課題レポートの返却によって行う			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	ホスピス・緩和ケアに関して興味・関心のある学生の受講を希望します。通常から授業に関する書物、関病記等を積極的により、理解を深めておいてください。具体的な事例を含めて授業を展開しますので、積極的な受講態度を期待しています。			
履修登録条件				

講義科目名称：感染看護特論

英文科目名称：Advanced infection nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
杉本 厚子、小林 由美江				
看護専門科目群		看護の統合と実践分野	特定領域	
授業概要	健康に影響を及ぼす感染の課題を理解し、感染予防及び感染時における看護職の役割について学ぶ。保健医療福祉機関や在宅における感染予防の基礎となる微生物学・免疫学について学習する。感染予防のための重要概念となるスタンダードプリコーションについて理解し、感染予防の方法と技術について学習する。近年における新興感染症や再興感染症とその対策についても理解し、感染予防や感染症発生時における看護職の役割と機能について学習する。また、感染管理認定看護師の役割と活動の実践について学ぶ。			
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 感染看護の現状及び看護の役割 (杉本厚子) 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自分で調べ、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問してください。</p> <p>第2回 感染症を持つ患者・家族の看護 HIV感染などウイルス感染症に対する看護 (杉本厚子) 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自分で調べ、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問してください。</p> <p>第3回 易感染状態にある患者・家族の看護 化学療法等の治療により、易感染状態にある患者の看護 (杉本厚子) 予習：講義日程を確認し、該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：理解できなかった事柄は自分で調べ、解決できなかったことは、次回授業内に質問時間を設けるので質問してください。</p> <p>第4回 地域：在宅における感染管理 (杉本厚子) 予習：在宅看護論の感染に関する該当範囲のテキストを読み、講義に望む 復習：在宅における感染管理を理解できるよう、理解できなかった事柄はそのままにせずきちんと解決する。</p> <p>第5回 医療関連感染サーベイランス (小林由美江) 予習：医療関連感染サーベイランスとは、感染管理に関わる対策の立案、導入、評価に不可欠な医療関連感染に関するデータを継続的に収集、分析、その結果を共有する活動です。医療施設では様々なサーベイランスが実施されていますが、今後、看護師としてこれらのデータを臨床現場でどのように活用しようと考えますか？サーベイランスの必要性について考えてみましょう。 復習：効果的な感染対策活動を実施するためには、自施設の医療関連感染がどれくらい発生し、どのような傾向にあるのか、サーベイランスデータを有効に活用しましょう。</p> <p>第6回 医療を行う時の感染防御技術、医療廃棄物の処理 (小林由美江) 予習：手指衛生は、医療関連感染対策の基本であり、有効性が証明されています。しかし、実際には手指衛生が十分に実施されているとはいえません。患者ケアの際には、適切な場面とタイミングで手指衛生を実施する必要があります。WHOが提唱する「手指衛生の5つの瞬間」について考えてみましょう。 復習：多忙な臨床現場で手指衛生が必要な場面は様々です。交差感染の原理を理解し適切な手指衛生や個人防護具の正しい使用方法について理解しましょう。</p> <p>第7回 医療機関における感染管理認定看護師 (ICN) の役割と実際 (小林由美江) 予習：感染管理認定看護師に期待される能力は、医療関連感染の予防と自施設における感染管理システムの構成です。そして、病院に出入りする人全てが感染予防策を実践できるよう支援を行います。具体的にどんな役割が必要だと思いますか、臨床実習での学びを思い出しましょう。 復習：感染管理認定看護師 (ICN) が目指す目標とその具体的な活動とその効果を理解しましょう。</p> <p>第8回 感染看護の課題と方向性 (小林由美江) 予習：近年の新興感染症や再興感染症の動向や対策について、医療機関の役割やそこで働く様々な職種の役割とはなんでしょうか？ 復習：アウトブレイク発生時の対応等、具体的な対策について理解し、平時の感染対策の重要性を理解しましょう。</p>			
授業の目的・到達目標	医療関連感染は、適切な対策をとることで発生頻度を低減できることを学習し、手指衛生をはじめとする標準予防策 (スタンダードプリコーション) や経路別予防策について理解し実施できることを目標とする。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる。			
教科書	絵でわかる感染症 講談社 (杉本厚子)			
参考書	特になし、授業であれば提示			
評価基準及び成績評価方法	各授業の最後に書いてもらうレポートの採点 (5点、4点、3点、2点、1点の5段階評価) によって採点する。上記目標を達成したレベルを60点に換算する。それ以上が合格点とする。試験は行わない。			
達成度の伝達	レポートの返却によって行う。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー	臨床現場での看護師や保健師としての活動を目前に控え、希望や不安など様々な思いがあらうかと思います。少しでもイメージしやすいお手伝いできればと思います。(小林由美江) 感染看護と領域別看護を融合させて、看護の専門性を理解し幅広い視野で看護実践が行えるよう学習してください。(杉本厚子)			
	<オフィスアワー> 感染予防に関するご相談、また、看護師として働くことへの不安などのご相談は、講義の際にご連絡ください。専任教員ではありませんので十分な時間が取れませんが、可能な限り対応いたします。(小林由美江)			

講義科目名称：国際看護特論

英文科目名称：Advanced international nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
宮越 幸代、会沢 紀子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		特定領域	

授業概要	世界的な健康課題や各国が協力して取り組む看護活動について学ぶ。 世界の健康課題の現状やその背景について理解し、国際的に協力して健康課題に取り組む国際看護の過程について学習する。その協力する対象となる国際機関、政府、非政府組織の役割や、各職種の連携について理解し、国際協力における課題について考察する。また、日本の看護職の国際協力における実際の活動について理解し、国際看護の今後の展望について考察する。
授業計画	第1回 【国際看護の定義と基礎知識】（宮越） <講義> 国を超えた看護の実践、開発途上国の定義と分類およびとらえ方 予習：「開発途上国」「プライマリヘルスケア」の用語の定義、教科書の210ページから220ページ 復習：集中講義のため、次時間の冒頭で口頭確認をします。 第2回 【グローバルヘルスと国際協力】（宮越） <講義> 国際社会がめざす保健医療の目標達成に果たす看護の役割 予習：「グローバルヘルス」の概念、教科書の220ページから236ページ 復習：集中講義のため、次時間の冒頭で口頭確認をします。 第3回 【国内における外国人看護師との協働】（宮越） <DVD視聴・講義・意見交換> 受入および就労条件とよりよい協働 予習：外国人看護師の受入条件、就労状況について新聞やテレビ等の媒体から、国内の実情に関心をもち把握しておく 復習：配布資料を熟読し、講義内容や意見交換を踏まえた各自の考えについてのレポート作成 第4回 【多文化共生看護】（宮越） <DVD視聴・講義> 在日外国人の生活と健康問題、文化アセスメント 予習：教科書の237～244ページ。在日外国人の生活や健康問題、医療について身近な情報や体験、新聞等の媒体から実情に関心をもち把握しておく 復習：講義内容を踏まえたミニテスト実施 第5回 【世界の保健医療状況と途上国におけるプライマリ・ヘルス・ケア】（宮越） <講義> プライマリ・ヘルスケアが必要とされる途上国の現況 予習：教科書の251～265ページ 復習：集中講義のため、次時間の冒頭で口頭確認をします。 第6回 【看護分野の国際協力に必要な知識と技術】（宮越） <講義・事例検討> 日本と異なる看護や看護技術、医療行為等の事例検討 予習：日本とは方法や考え方が異なると予想される看護技術や看護方法について、既習の知識や各自の経験から考えておく 復習：集中講義のため、次時間の冒頭で口頭確認をします。 第7回 【途上国における国際看護協力の実際①】（宮越） <講義・意見交換> 日本と異なる国における看護教育と国際協力の事例 予習：教科書の266～272ページ 復習：配布資料を熟読し、講義内容を踏まえたレポート作成 第8回 【途上国における国際看護協力の実際②】（会沢） <講義・グループワーク> 国際緊急支援に関わる看護活動の事例 予習：教科書の272～302ページ 復習：配布資料を熟読
授業の目的・到達目標	1. 国際看護の実践に必要な基礎的知識と方法を学び、国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた看護の実践方法について考える（主に、開発途上国を中心とした国際協力）。 2. 国際看護の場面における具体的な状況判断が必要な事例への対応や国際協力方法について検討し、多文化共生や効果的な国際協力の視点から国際看護を具体的に捉えることができる。 以上の観点から、国や地域、文化や人種などあらゆる違いを超えた国際看護についての基礎的な考え方を習得する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる
教科書	医学書院 <系統看護学講座 統合分野>、看護の統合と実践[3]、災害看護学・国際看護学(第3版)
参考書	授業単元ごとに適宜紹介します
評価基準及び成績評価方法	第4回目のミニテスト結果（40点満点）に加えて合計2回のレポートの採点結果（5段階評価で15点満点×2）、第8回のグループワークの達成度を5段階で30点満点で採点（5:30点、4:24点、3:18点、2:12点、1:6点）し、総合的にを行います。
達成度の伝達	レポートおよびグループワークに対する総評と採点結果、ミニテスト結果のフィードバックによって行います。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業日以外の不明点はメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始後に通知します。
履修登録条件	

講義科目名称：災害看護特論

英文科目名称：Advanced disaster nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	選択	講義
担当教員				
宮越 幸代、会沢 紀子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野		特定領域	

授業概要	災害看護の歴史の変遷と災害に関する制度について理解し、災害が人々の生活や健康に及ぼす影響と健康上の課題について学習する。 災害の種類と災害サイクル、その災害に伴う疾病構造や健康課題について学習し、対象となる人や集団（場所）、災害各期に応じた看護の方法について理解する。また、災害時における社会資源の活用や住民のネットワークの構築、地域における災害対策マニュアルをふまえた上での看護活動の実践について学ぶ。
授業計画	第1回 【災害看護概論】（宮越） <講義> 災害の種類と疾病構造。災害サイクルと活動の場、災害医療と看護職の役割 予習：教科書の2～65ページ 復習：教科書の該当ページ、集中講義のため次回授業の冒頭で習得度を確認します。 第2回 【災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護①】（宮越） <講義・紙上シミュレーション> 災害各期の看護の特徴、発災後急性期の病院での初期対応 予習：教科書の65～126ページ 復習：教科書の該当ページ、集中講義のため次回授業の冒頭で習得度を確認します。 第3回 【災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護②】（会沢） <講義・演習> トリアージとは、トリアージタッグの使い方、トリアージ演習と被災後のトリートメント 予習：教科書の95～102ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読 第4回 【地域災害看護の展開】（会沢） <講義・事例検討> 地震災害時における救護班および地域での災害看護の展開 予習：教科書の168～208ページ（第3章） 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読 第5回 【災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護③】（宮越） <講義・意見交換> 避難所・仮設住宅での看護活動の実際（熊本地震の事例等） 予習：事前配布資料の熟読 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読 第6回 【被災者特性に応じた災害看護の展開①】（宮越） <講義> 災害時要配慮者・要援護者・慢性疾患患者の看護 予習：教科書の126～146ページ 復習：教科書の該当ページ、グループワーク課題（事例検討） 第7回 【被災者特性に応じた災害看護の展開②】（宮越） <講義・グループワーク> 高齢期・妊産婦・小児・障がい者・在日外国人等の看護 予習：教科書の126～140ページおよび143～149ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読 第8回 【被災者特性に応じた災害看護の展開③】（宮越） <講義・ミニテスト> 精神的な支援を必要とする対象の看護 予習：教科書の149ページ～165ページ 復習：教科書の該当ページ、配布資料の熟読
授業の目的・到達目標	1. 災害サイクルや災害発生現場、対象の特性に合わせた看護を考慮、実践するための方法を考える。 2. 防災・減災及び災害時の対応における看護者の役割を考える。 3. 災害発生後急性期におけるトリアージとトリートメントの基本を学び、演習を通してトリアージ判定の方法を学ぶ。 以上の3点から、防災・減災にかかわる災害医療における看護師の役割と方法について知り、災害看護を実践できる基礎的な知識と急性期のトリアージ判定の基礎的な力を習得する。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「あらゆる看護の対象の健康レベル・成長発達に応じて、科学的根拠に基づいた看護実践能力を習得する」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「多様な対象の特性や環境を理解し、科学的な根拠に基づいた知識・技術を用いて必要とされる看護を判断し計画的に実践できる能力を備えた人材育成」につながる
教科書	医学書院 <系統看護学講座 統合分野>、看護の統合と実践[3]、災害看護学・国際看護学(第3版)
参考書	授業単元ごとに適宜紹介します
評価基準及び成績評価方法	7回目のグループワークの達成度をグループごとに5段階で採点する（5:40点、4:32点、3:26、2:18点、1:10点）。グループワークの目標を達成したレベルを各40点内で換算する。加えて8回目のミニテスト結果（60点）を換算し総合的に行う。
達成度の伝達	グループワークおよびミニテストに対する総評および採点結果のフィードバックによって行います。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	授業日以外の不明点はメールにて受け付けます。メールアドレスは授業開始後に通知します。
履修登録条件	

講義科目名称：看護研究ゼミナール I

英文科目名称：Nursing research seminar 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	4年次	1単位	必修	演習
担当教員				
櫻井清美、清水千代子、細谷京子、杉原喜代美、佐藤正子、山下美根子、川島美佐子、佐藤栄子、青山みどり、栗田佳江、鈴木育子、沼田加代、中村史江、富山美佳子、鈴木早智子、渡邊いよ子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	研究ゼミナール		

授業概要	3年次に科目「看護研究」で学んだ知識をもとに、演習での体験を通して、看護学における研究の必要性と看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を培う。研究とは何か、研究の意義とプロセスを倫理的視点で学ぶ。各研究デザインの特徴と方法を理解し、自分の興味関心のあるテーマで文献研究を行う。学生が選択したテーマについて関連が深い専門領域の教員が担当し、ゼミナール形態で個人・グループで学習をすすめていく。文献検索・検討を十分に行い、学習の成果を発表会においてプレゼンテーションしていく。
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス、ゼミグループ担当の教員の研究紹介 1. 看護研究の役割と特徴について確認 2. 看護実践の質向上に必要な研究力 3. リサーチクエスチョンについて確認</p> <p>第2回 グループごとのオリエンテーション（各教員研究室）、研究テーマの選択 リサーチクエスチョンの意見交換</p> <p>第3回 グループごとに研究テーマの決定（各教員研究室） 1. リサーチクエスチョンの意見交換 2. 研究テーマの決定 3. 前期のグループ計画などの検討</p> <p>第4回 グループごとに文献検索・検討①（各教員研究室） 1. 文献レビューの目的や方法の確認 2. クリティークの方法の確認</p> <p>第5回 グループごとに文献検索・検討②（各教員指定場所）</p> <p>第6回 グループごとに文献検索・検討③（各教員指定場所）</p> <p>第7回 グループごとに文献検索・検討④（各教員指定場所）</p> <p>第8回 グループごとに文献検索・検討⑤（各教員指定場所）</p> <p>第9回 グループごとに文献検討のまとめ①（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第10回 グループごとに文献検討のまとめ②（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第11回 グループごとに文献検討のまとめ③（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第12回 グループごとに文献検討のまとめ④（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第13回 グループごとに文献検討のまとめ⑤（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第14回 グループごとに文献検討のまとめ⑥（先行研究で何がどこまで明らかにされているのか、研究の意義と課題）</p> <p>第15回 前期の看護研究ゼミナールのまとめ、グループごとに総括</p>
授業の目的・到達目標	看護学における研究の必要性と看護実践における研究の意義を理解し、研究方法の基礎的能力を養う。 1. 研究疑問を具体化する過程が理解できる。 2. 関心のある研究テーマを選択決定できる。 3. 研究テーマに沿った文献を検索し、検討できる。 4. プレゼンテーションの効果的な方法がわかる。
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成」につながる。
教科書	坂下玲子編著：系統看護学講座 別巻 看護研究、医学書院
参考書	1. 黒田裕子：黒田裕子の看護研究Step by step、医学書院 2. 小笠原知枝編著：これからの看護研究、ヌーベルロカワ 3. 早川和生編著：看護研究の進め方論文の書き方、医学書院 4. 南裕子編著：看護における研究、看護協会出版会 その他、授業中に適宜紹介する。
評価基準及び成績	文献検討グループレポート（80%）、個人レポート（20%）により総合的に評価する。

評価方法	
達成度の伝達	随時学生にコメントしていく。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	1. 演習前にはテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2. 演習については、グループで協力し合い課題に取り組むこと 3. 自分の立場で看護研究をとらえ、看護の対象や現象に敏感になり研究への意欲を深めてほしい
履修登録条件	

講義科目名称：看護研究ゼミナールⅡ

英文科目名称：Nursing research seminar 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4年次	1単位	必修	演習
担当教員				
櫻井清美、清水千代子、細谷京子、杉原喜代美、佐藤正子、山下美根子、川島美佐子、佐藤栄子、青山みどり、栗田佳江、鈴木育子、沼田加代、中村史江、富山美佳子、鈴木早智子、渡邊いよ子				
看護専門科目群	看護の統合と実践分野	研究ゼミナール		
授業概要	演習での体験を通して、看護学における研究の必要性と看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を培う。学生が選択したテーマについて関連が深い専門領域の教員が担当し、ゼミナール形態で個人・グループで学習をすすめていく。看護実践における研究の役割や研究疑問を具体化する過程を学ぶ。看護研究ゼミナールⅠでまとめた結果をもとに研究計画書を作成する。研究計画書の意義と作成のプロセスを学習し、学会参加等により、研究成果公表の実際を体験する。4年間の集大成として、専門職者として研鑽し続けられる基本的能力を身につけることを目指す。			
授業計画	<p>第1回 科目ガイダンス（各教員研究室） 後期のグループ計画などの検討</p> <p>第2回 文献学習発表会準備①（各教員指定場所） 1. 研究成果を伝える方法の確認</p> <p>第3回 文献学習発表会準備②（各教員指定場所）</p> <p>第4回 文献学習発表会① 各ゼミの文献学習の成果を発表し、相互に学びあう</p> <p>第5回 文献学習発表会②</p> <p>第6回 文献学習発表会③</p> <p>第7回 文献学習発表会④</p> <p>第8回 文献学習発表会のまとめ、研究計画書作成①（各教員指定場所） 1. 研究計画書の意義の確認 2. 研究計画書の書き方の確認</p> <p>第9回 研究計画書作成②（各教員指定場所）</p> <p>第10回 研究計画書作成③（各教員指定場所）</p> <p>第11回 研究計画書作成④（各教員指定場所）</p> <p>第12回 研究計画書作成⑤（各教員指定場所）</p> <p>第13回 研究計画書作成⑥（各教員指定場所）</p> <p>第14回 研究計画書作成⑦（各教員指定場所）</p> <p>第15回 看護研究ゼミナールのまとめ、グループごとに総括</p>			
授業の目的・到達目標	看護学における研究の必要性と看護実践における研究の意義を理解し、看護研究の基礎的能力を養う。 1. 看護実践における研究の役割を理解できる。 2. 研究疑問を具体化する過程が理解できる。 3. 研究計画書が作成できる。 4. 効果的なプレゼンテーションが工夫できる。			
教育目標に対する科目の位置付け	教育目標の「看護専門職として、自らのキャリアデザインを設計し、自己成長のために探究心をもって、継続的に学習できる」から配置された看護専門科目群の科目である。DPの「自己の成長を目指し、意欲を持って積極的に研鑽を積み、看護専門職としての価値と専門性を発展させることができる人材育成」につながる。			
教科書	坂下玲子編著：系統看護学講座 別巻 看護研究。医学書院			
参考書	1. 黒田裕子・黒田裕子の看護研究Step by step. 医学書院 2. 小笠原知枝編著：これからの看護研究。スーベルヒロカワ 3. 早川和生編著：看護研究の進め方論文の書き方。医学書院 4. 南裕子編著：看護における研究。看護協会出版会 その他、授業中に適宜紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。			
達成度の伝達	随時学生にコメントを返していく。			

資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	1. 演習前にはテキストを読み、疑問点について調べておくこと 2. 演習については、グループで協力し合い課題に取り組むこと 3. 自分の立場で看護研究をとらえ、看護の対象や現象に敏感になり研究への意欲を深めてほしい
履修登録条件	

講義科目名称：教職論

英文科目名称：Theory of Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
鎌田尚子, <教員>				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	教師とは何か、教員の養成制度、職務の専門性を考える。また、実務としての教科指導、生徒指導、進路指導と服務規律について学ぶ。さらに、養護教諭の職務、保健室の管理、運営について学び、学校の全体の健康指導と校務分掌等との連携について考える。
授業計画	<p>第1回 教師とは何か(教員) 学校教育において多くの教師に出会ったと思います。教師とは何かを考える。</p> <p>第2回 教師像(教員) 聖職者、労働者としての教師について理解を深める。</p> <p>第3回 教員養成制度(教員) 教員養成制度と教育職員免許法について概説する。</p> <p>第4回 教員の職務(教員) 教師の職務について概説する。</p> <p>第5回 専門職としての教師(教員) 専門職の要件と専門職としての教師について考える。</p> <p>第6回 教員の職務と法(教員) 教員の職務と服務規程について講義する。</p> <p>第7回 教科指導(教員) 教科の学習指導、教材研究と授業について講義する。</p> <p>第8回 集団としての生徒指導(教員) ホームルームなど集団としての生徒指導について考える。</p> <p>第9回 課題のある生徒の指導(教員) 不登校やいじめなど課題のある生徒の指導について考える。</p> <p>第10回 進路指導(教員) 生徒の進路指導のあり方と指導について考える。</p> <p>第11回 養護教諭の歴史と養成制度(鎌田) 養護教諭の歴史と養成制度について概説する。</p> <p>第12回 養護教諭の職務と専門性(鎌田) 養護教諭の職務と専門性について考える。</p> <p>第13回 保健室の管理・運営(鎌田) 保健室の管理・運営について考える。</p> <p>第14回 学校の健康管理(鎌田) 幼児、児童、生徒、教員の健康管理について考える。</p> <p>第15回 教員・校務分掌との連携・協働(鎌田) 生徒指導部の教員や学校相談員・スクールカウンセラーとの連携・協働について考える。</p>
授業の目的・到達目標	本授業では、教師の仕事(教職)とは何か、教師の職務内容、学校や教師をめぐる現状、教師の資質など教職についての基本的な理解を深め、教職への意識と使命感を高めようとするものである。
教育目標に対する科目の位置付け	教員免許(工業(高校)・情報(高校)・養護)取得に必要な教職科目で、1年後期に設けている必修科目である。本講は、教師の仕事は何か、教師の職務内容、学校や教師をめぐる現状など教職についての基本的な理解を深め、学生の教職への意識と使命感を高める。
教科書	教職問題研究会編：教職論(第2版)－教員を志すすべてのひとへー
参考書	随時指示する。
評価基準及び成績評価方法	課題レポートや試験で60点以上を合格とする。講義への出席状況、学習態度なども参考にする。
達成度の伝達	試験の成績を公表する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	(教職論)は、教職資格取得に必要な教職科目のひとつで、教職、学校の教師の仕事、教師のあり方など教職の基本について学ぶ科目である。教職を目指す、あるいはまだ将来の職業がはっきりしていなくても教職の資格を取得しようと思っている学生は積極的に受講して欲しい。
履修登録条件	

講義科目名称：教育基礎論

英文科目名称：Theory of Education Fundamentals

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年	2 単位	必修	講義
担当教員				
野口 周一				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	教職の必修科目として、前半は、なぜ人間のみが教育が必要なのか、その根拠として「教育」の語義、人間の生物学的ユニークさなどの視点から考察する。後半は戦後・昭和2年に公布された「教育基本法」および平成18年に改正された現行「教育基本法」の内容を通して、戦後教育の理念と制度の特徴、その後、現代に至る日本の教育のさまざまな問題や課題について考察する。
授業計画	<p>第1回 第1章 なぜ人間のみが教育が必要動物とされる理由をカントの『教育学』を通して考える 「教育」という言葉の意義、本能的存在(動物)と理性的存在(人間) 教科書2-8頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。なぜ人間のみが教育が必要とされているのか考えてみる。</p> <p>第2回 動物(特にチンパンジー)の学習行動やコミュニケーション、文字を理解するチンパンジー(アイとアユム) 教科書8-10頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。人間と他の動物の学習、コミュニケーションについて考えてみよう。</p> <p>第3回 第2節 野生児の教育・訓練、狼に育てられた少女(カマラとアマラ)の事例、野生児の事例を通して学ぶこと 教科書11-17頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。野生児の事例を通して学ぶこと のなかで育てられなかったらどうなるか考えてみよう。</p> <p>第4回 第3節 人間の誕生時の無力・無能性、ルソーの教育思想(子どもの発見、消極教育論、内発的動機づけ) 教科書18-22頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。現代における学習の動機づけ(モチベーション)について考えてみよう。</p> <p>第5回 人間のユニークさに関するアドルフ・ポルトマンの説(「一年早産説」)、現代日本における「青年期」の問題 教科書22-29頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。現代の日本の青年、若者の自立の問題について考えてみよう。</p> <p>第6回 第4節 人間のユニークさの中心は「直立歩行」、「ホモ・ファールベル」(道具の使用と製作)としての人間 教科書30-33頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。人間の特徴である直立歩行の特徴(メリット)と弱点(疾病)について考えてみよう。</p> <p>第7回 第5節 「ホモ・ルーデンス」(遊戯人)としての人間、文化の伝達と創造(教育)、人間の愚行・非行 テキスト34-38頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。人間の特徴は創造性にあるが、そのことを裏付ける脳の仕組みと働きの特徴について考えてみよう。</p> <p>第8回 第2章 戦後教育の原点・「教育基本法」の理念と制度 第1節 終戦直後の状況と「教育基本法」の制定 教科書40-45頁の部分をよく読み、終戦直後の状況と「教育基本法」が制定された経緯について要点をまとめよう。</p> <p>第9回 第2節「教育基本法」の理念。前文と第一条の「個の尊重」をめぐる 教育の「機会均等」の理念と制度(第三条) 教科書46-56頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。現代の日本の子どもたちは自尊感情が低いと指摘されているが、その原因と対策について考えてみよう。</p> <p>第10回 子どもの「受教育権」の保障(第四条) 定時制高校の制度化と今日に至る動向 教科書56-62頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。定時制高校の役割と動向、今日におけるパートタイムの学校の意義について考えてみよう。</p> <p>第11回 男女共学の理念と制度(第五条) 近年における高校共学化の動向。ジェンダー・フリー教育 教科書62-67頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。男女共学と別学の是非について考えてみよう。ジェンダーフリー教育とは何か、理解しよう。</p> <p>第12回 法規上の学校(第六条)、社会教育(第七条)、政治教育(第八条)、宗教教育(第九条)、教育行政(教育行政) 教科書67-75頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。「法規上の学校」とは何か。社会教育の意義と形態・方法を目標とする。</p> <p>第13回 第3章 第1節 「教育基本法」の改正(平成18年) 第2節 現代社会の状況・課題を反映した教育目的・目標(第二条) 公共の精神、道徳心、規範意識の強調 教科書78-88頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。戦後教育の反省と現代社会の課題を反映し、「教育基本法」がどう改正されたかについて理解する。</p> <p>第14回 第2条 教育目標の分析 現代っ子の体格・体力・生活技能、生命尊重、環境倫理、国際化の中で異文化理解と日本の伝統文化理解の教育 教科書88-93頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。生命尊重、環境倫理、異文化理解と日本の伝統文化理解のために、具体的にどのような教育がなされているか考えてみよう。</p> <p>第15回 第3節 高校・大学への進学率の急上昇と「生涯学習」の時代 教科書94-102頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。戦後の進学率上昇の背景要因、ボール・ラングランの「生涯教育」の理念・教育観についてまとめよう。</p>
授業の目的・到達目標	「教育基礎論」との科目名に示されるように、教育とは何か、なぜ人間は教育が必要なのか、といった教育の本質や原理、および日本の戦後教育の目的・理念・制度、および家庭教育・学校教育・社会教育の特質・機能・役割等についての基本的な理解を得ることを目指す。
教育目標に対する科目の位置付け	「教育基礎論」は「教職論」とともに教職科目としては最初の1年次後期に配当されており、教職の必修科目であるから教員免許を取得しようと思う者は全員履修しなければならない。本科目は「教育基礎論」との名称に示されるように、教育とは何か、なぜ人間は教育が必要なのか、といった教育の本質や原理に関する科目である。2年次以降の教職科目、例えば教育課程論、道徳と特別活動、教育制度論、生徒・進路指導論など、学校教育に関する各論の基礎にもなる。
教科書	麻生千明著『現代日本の教育課題』震旦出版社。その他、資料プリントを配布する。
参考書	適宜紹介する。

評価基準及び成績評価方法	試験で60点以上を合格とする。授業への出席状況、学習態度も参考にする。
達成度の伝達	試験の成績については最終評価を公表する。成績に疑問がある学生には答案を示して説明する。機会があれば試験の全体的な講評を行う。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：教育制度論

英文科目名称：Theory of Education Systems

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
野口 周一				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	<p>狭義の教育とされる「意図的教育」のうち、最も組織化、制度化されたものが学校である。本講では、まずわが国の古代から戦前に至る各時代の学校について、主として制度史の観点から概観する。次に戦後の教育理念と制度について「教育基本法」を中心に、機会均等、パートタイムの学校、男女共学等をめぐる動向等について考察、そして戦後の六三三制の改革動向、中高一貫、小中一貫など学校間の接続・連携の問題、週5日制など学校制度をめぐる最近の動向と今後の課題について考察する。</p>
授業計画	<p>第1回 広義の教育と狭義の教育 プリント資料、広義の教育（無意図的教育）と狭義の教育（意図的教育）とは何か、そして狭義の意図的教育において「制度」が問題となることを理解する。</p> <p>第2回 わが国古代の学校制度（大学寮・国学） 入学資格、試験制度 プリント資料、学校は文字文化の伝達機関として登場するが、わが国最初の学校である7世紀の大学寮について、どんな学校だったのか、入学対象や試験制度など、特に制度面について要点をまとめる。</p> <p>第3回 わが国中世の学校（足利学校）や寺院での修学 プリント資料、わが国中世の足利学校、また武士の寺院での修学について、修学期間や学習の日課などについて要点をまとめる。</p> <p>第4回 近世身分制社会と「複線型」学校制度 身分制に対応した武家学校（藩校・私塾）と庶民学校（寺子屋） プリント資料、江戸時代は学校が発達した時代であるが、身分によって学校が異なる「複線型」制度であった。江戸時代の学校と明治以後、現代の学校の制度の相違についてよく理解する。</p> <p>第5回 明治以後の近代学校制度の変遷。 全員就学の義務教育制度、学年制（等級制）、学級編成制度 プリント資料、現代の学校にもつながる明治以後の近代学校の特徴、特に制度面の特徴について要点をまとめる。</p> <p>第6回 近代学校のもつ国民的「統合」機能と職業的「分化」と階層上昇機能 制服・シンボル（校章・校歌など）・学校行事等を通して考える プリント資料、学校のもつ機能役割について、特に統合機能と分化機能とは何か、それは具体的にどのような面にみられるか考えてみよう。</p> <p>第7回 第2章 第2節 「教育基本法」にみる戦後教育の理念と制度 2. 教育の「機会均等」の理念と制度 3. 子どもの「受教育権」の保障（戦後の義務教育観） パートタイムの学校→定時制高校の変遷 教科書50-62頁の部分を読み要点をまとめる。現在、教育の「機会均等」の原理を妨げている要因は何か、また戦後から現代に至るパートタイムの学校の役割について考えてみよう。</p> <p>第8回 4. 男女共学の精神と高校共学化の動向 ジェンダーフリー教育 教科書62-67頁の部分を読み、戦後教育の特徴である男女共学の精神、共学と別学の是非について考えてみよう。またジェンダーフリー教育とは何か、理解を深めよう。</p> <p>第9回 5. 法規上の学校（戦後日本の学校） 教科書67-73頁の部分を読み、法規上の学校とは何か、また高等専門学校、中等教育学校が登場した背景、学校段階ごとの目的について要点をまとめよう。</p> <p>第10回 6. 社会教育の奨励 (1)法規上における社会教育の定義 (2)社会教育の形態と方法 学校教育と並んで戦後重視されるようになり、今日の生涯学習の時代に益々重要性を増している社会教育について、定義、形態と方法など理解を深める。</p> <p>第11回 第9章 第1節 六三三制の改革と中高一貫制度の導入・実施 1. 六三三制の導入と改革の動向 教科書262-266頁の部分を読み、戦後、六三三制をめぐる「五・四・四」などいろいろな改革意見がみられたこと、その論拠などについて要点をまとめる。</p> <p>第12回 2. 中高一貫制度の提言とそれをめぐる論調 3. 中高一貫制度のスタート 教科書266-270頁、中高一貫制度の意図と問題点、成立当初の中高一貫学校の事例についてまとめ、その後今日に至る中高一貫校の設立状況等について調べてみよう。</p> <p>第13回 4. 小中一貫など学校間の連携 教科書270-272頁の部分を読み、現代は中・高のみでなく幼小一貫・小中一貫、高大連携など、あらゆる学校間の連携が課題となっているが、その意図や背景について考えてみよう。</p> <p>第14回 第2節 学校週5日制の導入経過と現状 1. 日本の学校における「休日」制度の歴史 1990年代における週5日制導入の背景、経過と現状 教科書273-280頁の部分を読み、1990年代において学校5日制度が導入された経緯、背景について要点をまとめてみよう。</p> <p>第15回 7. 土曜日や放課後の活用に関する最近の状況 教科書281-282頁、学力低下への懸念とともに最近土曜日に授業を実施する学校が増えている。そうした5日制をめぐる最近の動向について考えてみよう。</p>
授業の目的・到達目標	意図的・計画的な教育において、どう教育するか、その教育の内容(教育課程)が「内的事項」と称されるのに対して、制度などは外律の部分で「外的事項」と称される。特に制度的に整備されているのは学校教育で、本講では学校を中心に制度の変遷、現代の課題・問題について考察する。
教育目標に対する科目の位置付け	教職の必修科目である。意図的・計画的な教育において、どう教育するか、その教育の内容(教育課程)が「内的事項」と称されるのに対して、学校制度、学年制度、学級編成など外律的部分は「外的事項」と称される。戦後六三三制が敷かれて半世紀以上経過したが、六三三制の改革や学校間の連携など課題が多い。本講では学校を中心に制度の変遷、現代の制度上の問題・課題について考察する。
教科書	麻生千明著『現代日本の教育課題』震出版社。
参考書	麻生千明著『子どもと学校の歴史』 震出版社。その他、資料プリントを配布する。

評価基準及び成績評価方法	試験で60点以上を合格とする。授業への出席状況、学習態度なども参考にする。
達成度の伝達	最終試験の結果については、評価を公表、機会があれば試験の講評、解説をおこなう。評価に疑問がある学生には答案を示して説明する。
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	小中一貫、中高一貫、高大連携など、高学歴社会となった今日、また生涯学習時代という点からも学校間のスムーズな連携、接続が大きな課題になっている。それはカリキュラムや学力の面の課題であるとともに、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」などの言葉に示されるように、不登校対策、子どもたちが、学校環境の変化に対していかにスムーズに対応していくか、という点からの課題にもなっている。そうした学校制度をめぐる今日の動向や課題について理解することは教職に就く者にとって必須、重要なことである。
履修登録条件	

講義科目名称：教育課程論

英文科目名称：Curriculum Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
黒羽 正見				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	実際に教師の日常的職務活動の具体的場面に即して、教室レベルの教育課程経営の体験活動を通して、教育実践者としての「教育課程を経営する意味」のリアリティに接近する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：教育課程論の学び方と学ぶ上での核となる概念の説明 学び合い、自己認識、暗黙知、気づきと振り返り、自己更新、教師の成長</p> <p>第2回 教育課程の基盤にあるもの ビデオ（みんな輝いているよ）視聴による教育課程の理解</p> <p>第3回 学校教育における教育課程の現代的課題とその解決方法 1枚の折り紙から紡ぎ出される方法とは</p> <p>第4回 教育課程にしみ出る教師の人間性 1編の生徒の詩から連想される教育課程の色</p> <p>第5回 教育課程を円滑に機能させるもの 授業中の教室に教育課程が生み出すもの</p> <p>第6回 教育課程の障害となるもの 学校内に生じるものと教室内に生じるもの</p> <p>第7回 教育課程の障害物を取り払う方法 1枚のA4判の紙からWe-feelingを生み出そう</p> <p>第8回 教室における教育課程の創造の仕方 学習指導案と略案・細案について</p> <p>第9回 教育課程と生徒理解 教育課程におけるコミュニケーション方法</p> <p>第10回 教育課程と評価 模擬授業と他者評価・自己評価</p> <p>第11回 教育課程とカリキュラムの違い 国レベルから教室レベルに至るまでの学習指導要領の変容過程</p> <p>第12回 教育課程の新しい方向 教育の計画・内容を機能させる教育課程経営のしくみについて</p> <p>第13回 教育課程と教師の成長の関係 教育課程からカリキュラムをつくる意味</p> <p>第14回 教育課程のさまざまな捉え方 顕在的カリキュラムと潜在カリキュラム、教科カリキュラムと経験カリキュラム</p> <p>第15回 まとめとしての教育課程をつくる 教育課程の方法・技術の基底に存在するもの（知識・技術に還元できぬもの）</p>
授業の目的・到達目標	学校教育の教育課程（カリキュラム）編成の規定要因、歴史、現状、課題等についての理解を得る。
教育目標に対する科目の位置付け	動きのない紙面上の教育課程（計画・内容）から生徒との相互行為として「教師が教育課程をつくる」意味の理解を実践的に深める。
教科書	山崎保寿・黒羽正見『教育課程の理論と実際』学陽書房
参考書	稲垣心顕・黒羽正見編『学際型現代学校教育概論』金子書房
評価基準及び成績評価方法	毎時間の振り返りシート、レポート、出席状況、学習態度等を参考にする。
達成度の伝達	
資格情報	
メッセージ・オフィスアワー	
履修登録条件	

講義科目名称：道徳と特別活動

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	1単位	必修	講義
担当教員				
中山 和彦、高橋 知己				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	教師と児童・生徒の立場から、1年間（4月から翌年3月まで）の特別活動のカリキュラムづくり（計画・実施・評価）を行う。到達目標の判断基準となるので、以下の手続きを踏まえて自身の学級経営における授業構成を考える。主に次の4点は大切である。 1 毎回の道徳及び特別活動カリキュラム開発の集団討議に主体的に参加する。 2 毎回、作業ワークシートを作成した上で、最低でも1回は集団討議の司会を担当する。 3 全体討議の場では自身の問題関心と照らし合わせて、積極的な質問を展開する。 4 毎回の集団討議後、自身の主体的な考えを自己評価として詳細に記述する（オムニバス）			
授業計画	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 道徳とは何か 道徳性とは何か 教育とは何か 本講義の根本・本質・原点について考える。（中山） 		
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育とは何か 学級経営と道徳教育（道徳科） 教育活動全体で推進する道徳教育について考える。（中山） 		
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の道徳性の発達 学習指導要領一部改正による道徳科の設置とその趣旨 道徳科の模擬授業を体験して学ぶ。（中山） 		
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒理解と道徳教育 保健室における道徳教育 講義全体のまとめ（中山） 		
	第5回	学級（学年）文化を拓く教師（高橋）		
	第6回	教材研究と授業構想（高橋）		
	第7回	学習指導案を創る（高橋）		
	第8回	模擬授業と評価（高橋）		
授業の目的・到達目標	実際に教師の日常的職務活動の具体的場面に即して、教室レベルの道徳及び特別活動のカリキュラム開発の体験活動を通して、教育実践者として、道徳及び特別活動のカリキュラム開発のリアリティに接近できるようにする。			
教育目標に対する科目の位置付け				
教科書	指定なし。毎回、担当者が関係する資料を配付する。			
参考書	学習指導要領解説 「特別の教科 道徳編」 私たちの道徳（文部科学省）			
評価基準及び成績評価方法	定期試験実施。 試験60% 平常点40%で評価する。			
達成度の伝達	「学習のふり返り」（リアクションカード）を返却して、個別に達成度を伝える。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：教育の方法と技術

英文科目名称：Methods and Strategies of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年次	2単位	必修	講義
担当教員				
久保田 善彦				
教職専門科目				養護教諭一種免許状

授業概要	ある人の知識を他の人に伝える。このような知識の伝達は、教育において当たり前に行われているが、実は非常に困難であり、不可能ともいえる行為である。しかしながら、教育に従事する者は、その工夫と研究により、困難を取り除き、不可能を可能としてきた。本講義では、これら工夫と研究により生み出された教育の方法と技術を、歴史や発展といった背景的知識および機能や役割といった理論的知識を踏まえつつ、体験的に修得していく。			
授業計画	第1回	学習とは何か ・アクティブラーニングと構成主義		
	第2回	教えることと学ぶこと ・小学校1年生の算数と国語から考える		
	第3回	思考を外に出そう（1） ・マップ型（概念地図、マインドマップ、イメージマップ） ・フィンランドの授業を体験しよう（カルタ）		
	第4回	思考を外に出そう（2） ・運勢ライン法		
	第5回	学習意欲		
	第6回	協調学習（1） ・知識構成型ジグソー学習法（おてがみ）		
	第7回	協調学習（2） ・知識構成型ジグソー学習法（雲のでき方）		
	第8回	協調学習（3） ・学びの共同体の基本構造		
	第9回	授業ビデオを見よう（1） ・ワークショップ型授業研究		
	第10回	授業ビデオを見よう（2） ・ワークショップ型授業研究		
	第11回	ワークシートを作製しよう		
	第12回	学習ゲームを作成しよう（1） ・環境ゲームのデザイン		
	第13回	学習ゲームを作成しよう（2） ・環境ゲームの製作と実施		
	第14回	子どもの作品を見取ろう ・真正な評価について（ポートフォリオ・パフォーマンス） ・子どもの作品を見取る		
	第15回	振り返りと議論		
授業の目的・到達目標	(1)知識伝達の困難性を適切に認識し、教育の方法と技術がいかなる目的をもって生み出されてきたかについて説明できる。 (2)機能や役割といった教育方法に関する基礎を体験的に理解した上で、教育方法に関連する応用的な課題群・問題群に自分なりの答えを導くことができる。			
教育目標に対する科目の位置付け				
教科書	特に指定しない。			
参考書	講義内で適宜紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	小テスト(40%)：講義内容について、各回小テストを行う。 定期試験(60%)：講義全体の内容について、試験を行う。			
達成度の伝達	小テスト、定期試験の解答例を受講学生に示す。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：生徒指導論

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
森 慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状
授業概要	児童期・思春期の生徒指導を中心テーマとし、いじめや不登校、問題行動など具体的な事例に則して考察・討論し、生徒指導の意義、生徒指導の基礎を理解させる。			
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：生徒指導とは</p> <p>第2回 生徒指導の意義と課題</p> <p>第3回 生徒指導体制と生徒指導計画</p> <p>第4回 校則、懲戒、体罰と生徒指導</p> <p>第5回 児童生徒を取り巻く環境の変化と生徒指導</p> <p>第6回 生徒指導と教育相談</p> <p>第7回 不登校・引きこもりへの指導援助（1）現状と背景</p> <p>第8回 不登校・引きこもりへの指導援助（2）小学校</p> <p>第9回 不登校・引きこもりへの指導援助（3）中学校</p> <p>第10回 不登校・引きこもりへの指導援助（4）高等学校</p> <p>第11回 いじめへの指導援助（1）現状と背景</p> <p>第12回 いじめへの指導援助（2）いじめをどう捉えるか</p> <p>第13回 いじめへの指導援助（3）ネットいじめ</p> <p>第14回 いじめへの指導援助（4）いじめの予防</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業の目的・到達目標	人間としての在り方・生き方を問う生徒指導のすすめ方について考察し、生徒指導の実践的指導力の基礎を培うことを目標とする。			
教育目標に対する科目の位置付け				
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、2011年 本間友巳（編著）「学校臨床」金子書房、2012年			
参考書				
評価基準及び成績評価方法	レポートまたは試験を50%、講義内での発表およびディスカッションの内容を50%として総合的に評価する予定だが、受講者の人数によっては評価方法を変更することもある。変更する場合は事前に受講生に周知する。			
達成度の伝達	希望者には総合評価の内訳を開示する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				

講義科目名称：教育相談

英文科目名称：Consultation in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
森 慶輔				
教職専門科目				養護教諭一種免許状
授業概要	いじめ、不登校や児童虐待など、学校内外における児童生徒の諸問題は様々な形で現れており、対応する教師側の学校教育相談・教育臨床に関する知識、スキルの習得が求められている。本講義では、学校で行なわれる教育相談・教育臨床の機能、位置づけ、役割、方法などについて概略を説明し、さらに具体的課題として、不登校、いじめ、発達障害などのトピックスを取り上げ、教師の行なうべき対応方法や対策について理解を深めていくことを目指す。			
授業計画	<p>第1回 生徒指導と教育相談、教育相談の現状と課題</p> <p>第2回 教育相談に関する基礎知識（1）：精神分析</p> <p>第3回 教育相談に関する基礎知識（2）：来談者中心療法</p> <p>第4回 教育相談に関する基礎知識（3）：行動療法</p> <p>第5回 教育相談に関する基礎知識（4）：認知療法</p> <p>第6回 暴力行為への指導援助</p> <p>第7回 外国人児童生徒への指導援助</p> <p>第8回 児童虐待への指導援助</p> <p>第9回 発達障害への指導援助</p> <p>第10回 精神障害への指導援助</p> <p>第11回 性の課題への指導援助</p> <p>第12回 保護者対応</p> <p>第13回 危機管理／緊急支援</p> <p>第14回 外部講師講話（予定）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業の目的・到達目標	本科目では、将来教師として生徒指導を行う上で必要最低限の知識技術を身につけることが求められる。			
教育目標に対する科目の位置付け				
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、2011年 本間友巳（編著）「学校臨床」金子書房、2012年			
参考書	必要に応じて授業で紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	レポートを50%、講義内での発表およびディスカッションの内容を50%として、総合的に評価する予定だが、受講者の人数によっては評価方法を変更することもある。変更する場合は事前に受講生に周知する。			
達成度の伝達	希望者に総合評価の内訳を開示する。			
資格情報				
メッセージ・オフィスアワー				
履修登録条件				